清流の国ぎふ芸術祭

第5回 ぎふ美術展

清流の国ぎふ芸術祭

第5回 ぎふ美術展

2024.8.17 SAT — 9.01 SUN

主催　岐阜県・岐阜県美術館、(公財)岐阜県教育文化財団

目次

ごあいさつ	2
審査員講評	4
受賞作品	8
出品目録	43
会場風景	47
関連プログラム	48
記念品の紹介	53
応募要項	54
応募状況	56
来場者アンケート	57
広報	58
運営体制	60
企画委員長総評	61

ごあいさつ

「ぎふ美術展」は、年齢、性差、障がいの有無などに関わらず、誰もが参加できる開かれた美術公募展として5回目を迎え、盛大に開催することができました。本展の開催にあたり格別のお力添えとご支援をいただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

今回は、岐阜県を含む全国18都道府県の、4歳から93歳までの皆様から、880点もの作品のご応募をいただき、県内外で広く認知されつつあることを大変うれしく思います。

審査員には各分野の第一人者にご就任いただき、厳正な審査の結果、362点の入賞・入選作品が選ばれ、展覧会を華やかに彩りました。審査員の皆様からは、「多様な表現の作品が集まり、力作が多い」「個々の作品が生き生きと存在している」「集中力と熱意を持って仕上げられた作品に感動した」といったご講評をいただき、レベルの高さ、表現の幅広さに感心しておられました。

また、会期中の週末には作品講評会や審査員らによるトークイベントを開催し、展覧会全体で2万7千人を超える大変多くの方々にご来場いただきました。「ぎふ美術展」が、県民の皆様にとって“美術に親しむ機会”として定着してきていることを強く実感しました。

2024年度は文化イヤーとして、「清流の国ぎふ総文2024」（第48回全国高等学校総合文化祭）及び「清流の国ぎふ」文化祭2024（第39回国民文化祭、第24回全国障害者芸術・文化祭）を開催し、多彩な文化プログラムを県内各地で展開しました。今後も、「ぎふ美術展」をはじめとする様々な文化事業を通して、岐阜県の芸術文化の更なる発展に努めてまいります。

岐阜県知事　古田　肇

ごあいさつ

令和６年の夏は記録的な猛暑が続き、局地的な豪雨にも見舞われるなど厳しい日々でしたが、岐阜県では２年ぶりに５回目となる「清流の国ぎふ芸術祭 ぎふ美術展」を開催することができました。

「ぎふ美術展」は、これまでも創作活動に励む県民に広く発表する機会を提供してまいりました。令和６年度では、全国の高校生の文化の祭典である「清流の国ぎふ総文2024」の後を受け、全国から幅広い部門で作品を募る本格的な美術展としてPRに力を注ぎました。さらに、10月14日から11月24日にかけて本県全域で開催した「清流の国ぎふ」文化祭2024の機運を盛り上げる先駆けの役割も果たしたいと、入念に準備を進めました。

運営面では、審査員などによるクロストークや作品講評会を開幕直後の週末に集中して開催したり、自由表現部門の映像作品をじっくりとご覧いただくための鑑賞専用ブースを設置したりするなど、来場者の関心を高める工夫に努めました。一方で、週末ごとに大型台風の接近など思いがけない出来事が続き、予定を変更せざるを得なかったこともありました。しかしながら関係者の御尽力と、開催を待ち望む県民の皆様の御協力により、つつがなく会期を終えることができました。審査員、企画委員をはじめ運営に携わってくださった関係各位、及び来場者の皆様の温かいお力添えに深く謝意を表する次第です。

今後とも当財団では、世代や障がいの有無などにとらわれることなく、各地で自分らしい表現に向き合う活動に光をあててサポートしてまいります。「ぎふ美術展」をはじめこうした様々な取り組みがこの地に根付き、広がりをもって発展していくことを心から願ってやみません。

公益財団法人岐阜県教育文化財団　理事長　髙木 敏彦

日本画部門

内田 あぐり
AGURI Uchida
日本画家／武蔵野美術大学名誉教授

応募点数62点の作品を最初に拝見しました。全体の印象は様々な作品があり、面白いなと感じました。中でも特に目に飛び込んできたのは《海底》、《生まれるひ》、《白の夢の滝》、《おいで》、《花器のバラ》などで、それぞれが自分の世界観をしっかりと持ち、日本画の絵具や画材などを大切に使い、自分なりに工夫をする表現となっていることに好感を持ちました。

奨励賞の廣瀬芽依さんの《生まれるひ》は、子供のフォルムがとても魅力的です。キャベツという自然の世界に囲まれて、発想が初々しいですね。日本画絵具の発色も美しく、センスが光っています。同じく奨励賞の長田麻友子さんの《花器のバラ》は、古典的技法による朱色の線描とたらし込み、彫塗りで描かれたバラの表現が斬新です。余白とも言える空間に垣間見える金泥や花瓶の下の海のような空のような空間も素敵です。

若い方たちにもこれから積極的に作品を出品していただきたいなと思いました。

野地 耕一郎
KOICHIRO Noji
泉屋博古館東京館長

ぎふ美術展賞を射止めた上田雅利さんの《海底》は、重層的イメージを複雑な手法でまとめ上げた労作。時によって移ろい消え果ててゆく像を、画面に多数の切込を入れることで消えることのない歴史的結界を想わせるところに創意がある。

優秀賞となった申林さんの《白の夢の滝》は、幻想の手触りのようなものが魅力になっている。自然の中で輪転する生命観から立ちのぼる香気も感じられた。稲葉沙恵さんの《夏の日》は、揺らぐような影の表現の巧みさが個別な記憶を普遍性にまで高めている。二作とも現代の高速コミュニケーションから漏れるものを掬い取ろうとする柔軟な感触が、観る者との生き生きとした関係を生みだす喚起力をもっている。

奨励賞となった山田玲子さんの《装いの湿地》と田中まさこさんの《おいで》。いずれも生が往還する場として目には見えない陰の世界に妙にひかれた。廣瀬芽依さん《生まれるひ》、長田麻友子さん《花器のバラ》の透明感のある筆致は気まぐれでできるものではない。発砲スチロールに描かれた湯之下正純さんの《風木霊》にも驚いた。現代絵画のキャパシティーを少し押し広げてくれる仕事だと思う。

洋画部門

高橋 秀治
SYUJI Takahashi
豊田市美術館館長

200点を超える応募作から入選作を半数以下に抑えなければならないことは、それぞれが作者の思いのこもった作品ばかりで、なかなか厳しい選択を迫られました。そのような中で、ぎふ美術展賞に選出されたのは、林直樹さんの《atelier》です。これは室内風景を描きながら、単なる写生ではなく、それ自体が作者の息遣いが感じられる自画像ともいえる空気感と内からの光を宿した作品となっていました。

優秀賞鈴木孝治さんの《モメンタンⅡ》は画面の構成力が発揮された作品です。赤い地と二つの暗い人体は力強く、作品の存在感を高めています。もう一点の優秀賞河村正子さんの《笛吹く妖精たち》は版画作品ながらタブローの作品に負けない強い力を感じさせています。これら以外にも賞候補とは大差なく見るものに語りかけ、訴えかけてくる作品を多く見られたのは、審査員としておおいに考えさせられました。

馬越 陽子
YOKO Makoshi
洋画家／日本芸術院会員

熱意のこもった応募作品群はまさに現代の画壇の縮図のよう。具象・半具象・抽象・心象風景・イラスト風・マンガ調等の多様な作品に心を奪われた。

制作する事は自己の心を解放し、想いを画面に発散することで勇気を与える。その中で率直に自己の魂を解放するまで昇華し得た作品に心を打たれた。ぎふ美術展賞の林直樹氏の《atelier》はそのような作品でした。画面の奥から語りかける声は技巧を超えたものがある。正面から自分と対峙した色彩を抑えた祈りともいえる静寂の空間の表現があった。

文学に於いては憎むべきもの、悪をも書くことが出来るが、絵画は自分が愛し信じ善なるものしか描けない。これは平和のあかしではないでしょうか。この豊かな山河と清らかな空気の中、培われた心眼に根ざした想像力をどこまでも羽ばたかせる事こそ表現者の使命といえましょう。

彫刻部門

楠元 香代子
KAYOKO Kusumoto
彫刻家／鹿児島市立美術館館長

彫刻表現とは何かと難しい問いを自分自身に向けてみた。寄せられた多様な作品の中から優秀作品を選ぶ規範となる自分自身の物差しは何か？私にとって彫刻とは、空間の中に確固として存在する形態の表出であり、石や木、金属、あるいは粘土などの素材を使って表現する従来の彫刻の概念の中で生きてきました。しかし今日では素材の多様化とともに彫刻の概念も広がり、物差しを刷新する努力も続けています。今回入選に至らなかった作品の中には、彫刻表現というものについての考え方が違うものも見受けられましたが、全体的にまとまりの良い作品が多く、立体表現に熟達した技術を感じられる作品もありました。一方、もっと挑戦的な作品に出会いたいとも感じました。

受賞作品には、発想力、技術力、完成度、美しさ、訴求力などを考慮してバランスの良い作品が決まったと思います。出品された皆様に感謝し、更なる傑作に出会えることを期待しております。

林　武史
TAKESHI Hayashi
彫刻家／東京藝術大学名誉教授

今回は応募総数29点の中から入選作品22点を選びました。ぎふ美術展賞《 棗と玄牝》はすずの鋳造で造り出された女性の身体が、アクリルケースの中につるされた状態で提示されています。コンクリートベースとの絶妙なバランスが彫刻のクオリティーの高さを物語り作者の想いと重なった秀作になっています。優秀賞《海のかたち》は薄い鉄板を溶断トーチで丹念に熱し切り込みを入れ、波や海面の光を表現した鉄でありながら軽やかな力作になっています。もう一点は《舞いあがれ》。簡易素材で作られた木の台座の上部の中心に、白大理石の水滴のようなオブジェがあり、それを覆うように金属のメッシュがかけられています。空間に軽やかに存在する彫刻になりました。他にもブロンズの《身近になった月》、垂直に立ち並ぶ《construction3・3・3》や、プラスチックの廃材を巧みに組み合わせた《地球ダメージ85》などはそれぞれ作品意図、構成力や技術が作品と噛み合った作品になっていました。

ここに取り上げた作品以外にも素材、テーマ、意欲的な試みが随所に感じられました。個々の作品が生き生きと存在しているのを感じ、質の高さを確認できました。彫刻の力が光、空間と大きく関係する場に立ち会えて良かったです。

工芸部門

内田 篤呉
TOKUGO Uchida
MOA 美術館館長

第5回ぎふ美術展工芸部門は、応募作品94点、そのうち入選32点、受賞作品6点を選考した。本展の出品作品は実用性を重視する伝統工芸、芸術的表現を追求する工芸美術があり、さらに陶芸、染織、人形、ガラス、紙などのジャンル別もあり、難しい審査であった。審査に当たっては素材と技術の特質を活かした作品で、さらに造形性、デッサン力、新規性等を加味した。

ぎふ美術展賞の馬渕規子《積み木》は工芸の特質の枠を超えた華やかでポップな表現を評価した。優秀賞の鬼頭里美《無題》は型鋳込みの陶板で、グリーンとコバルト・ブルーが混じり合った美しい釉薬、陶板25枚のインスタレーションも迫力があった。同賞の酒井紫羊《山帰来紋大皿》は白磁に鉄絵と釉裏紅の技術と文様の完成度の高さを評価した。奨励賞の貝塚惇観《wanna be spinner》は羊毛の素材と陶芸を組み合わせた造形性を、馬場澄子《手描きレペル更紗絵「友人からのバラ」》は細密な手描き更紗の表現力、加藤敏一《宇宙大爆発》は有線と無線七宝による創造性をそれぞれ評価した。

本展は、岐阜県民の美術工芸に対する意識と作品レベルの高さを実感した審査であった。

森口 邦彦
KUNIHIKO Moriguchi
染織家／重要無形文化財「友禅」保持者

はじめて岐阜に来るのに新幹線の工事車輌の事故のため、京都から米原、大垣経由の在来線でゆっくり景色の変化を楽しみながらの旅でした。大収穫だったと思う。梅雨明け直後の強烈な日ざしの中、青々とした稲田の中を岐阜に入った。その輝く明るさと言おうか、活々とした感覚を、翌朝の第5回ぎふ美術展の作品群にも発見できたことは何とラッキーなことか。

工芸部門のもう一人の審査員の内田先生とは、日本伝統工芸展でたびたびご一緒のこともあり、心地よいリズムで審査会を終えることができたと思う。

当部門のぎふ美術展賞は、伝統的なキルトの作風を残しながら、私が昨日から感じている県民性か、あるいは風土性か、思い切り明るい表情の作品となった。誠実ながら伸びのびとした表現は、観る人々を引きこんで止まないだろう。

書部門

島谷 弘幸
HIROYUKI Shimatani
皇居三の丸尚蔵館館長

各書体においても多様な表現がなされており、ぎふ美術展が魅力溢れるものとなっている。書は線質と造形が重要であるが、さらに全体の調和が求められる。

よく書は読めない、また鑑賞の仕方がわからない、という方々が多いが、まずは全体の雰囲気を見て、好きな作品を鑑賞してほしい。そして、墨の潤渇や行の流れ、墨色を鑑賞することをお薦めしたい。

その後に、何が書かれているかに関心を持ってほしい。というのは、書家は何を書くのかがとても大きなテーマなのである。

作品のすべてを鑑賞した上で、自分の好きな作品を一点、多くても三点を選んで、じっくり鑑賞してはいかがでしょう。自分の好みも分かり、深い鑑賞が出来ます。

土橋 靖子
YASUKO Tsuchihashi
書家／日本芸術院会員

今年の書の「ぎふ美術展賞」受賞作品は、鍛え抜かれた線と洗練された結体、また紙とマッチした余白の美しさなど、仮名の美が遺憾無く発揮された傑作でした。

全体としても、多様な表現内容の作品が集まり、真摯で鍛錬された力作が多く、書に正面から向き合っている出品者の皆様の姿が作品を通して伝わり、緊張感あふれる審査となりました。

この美術展の特徴として感じたことは、全体のレベルの高さと、古典古筆を礎とした格調の高さ、さらに年齢層の広さです。年齢差や作者の背景を超えて一堂に審査するというのはむずかしい一面もありますが、それゆえに真に心を打つ作品とは何かを考え、見定める鑑別となったと思います。

それは、言い換えれば書の本質、最も大切なものを見つけることでもあります。技術に加え、さらに精神の高さ、紙に向かう心の清さが大切と痛感しました。

皆さんの益々のご健筆をお祈りしています。

写真部門

鳥原　学
MANABU Torihara
写真評論家

バラエティに富んだ今回の応募作品は、写真を見慣れた私にも新鮮な驚きを与えてくれました。その中から選ばれたのは、何度も頭の中で“反芻”してしまう作品です。造形的なリズムが楽しく、解けない謎を与えてくれます。
いまやカメラはより高精度になり、精細な写真が誰にでも撮れるようになりました。ただし、真に驚きを与えるのは珍しい被写体を珍しく撮ったものではなく、人間らしい眼差しと思慮深さ、そして造形的センスを感じさせる作品です。

和紙作りの伝承を捉えたぎふ美術展賞《見守る》の、一つのイメージを四つに分割して見せている工夫、開発の模様を描写した優秀賞《表裏一体》のキュビズムを思わせる画面構成、奨励賞《空き椅子》の静かなたたずまい。奨励賞《帰り道》の端に写る少女の大きな口も忘れられません。これらはすべて人間の眼差しの豊かさを示しているように思えたのです。

野口 里佳
RIKA Noguchi
写真家

応募作品の中でも特にプリント作品に質の高いものが多くあったように思います。プリント作品の場合は写真の内容だけでなく、その写真をどうやって見せるかも重要になってきます。どの大きさにプリントし、どんな額装にするかまでをよく考え、さらに新しい挑戦をしようとしていると感じた作品をぎふ美術展賞に選ばせていただきました。優秀賞の２つの作品は額装の方法も含め完成度が高く、今までどんな作品を作られてきたのかとても気になりました。奨励賞の《窓》と《過ぎ去りし人》も写真の本質に迫る力強い作品だと思います。

データ作品はモニターのサイズや質によって作品が左右されるため、大きなプリントで見たら良く見えるのだろうな、ともったいなく感じる作品もありました。データで応募する場合には並び順を考え抜くなど、モニターで見ることの良さを感じさせる作品を作る必要があると感じました。

今後ますますぎふ美術展に魅力のある作品が集まってくることを期待しています。

自由表現部門

榎本 了壱
RYOICHI Enomoto
クリエイティブ・ディレクター／大正大学教授

自由表現部門というのは、従来のアートのカテゴリーではくくれない、あるいは部門をまたいだり、重複したり、はみ出したりした、表現領域のものと解釈してよいと思います。ここに登場した作品群は、イラストレーションや、アニメーション、オブジェ、インスタレーションといったものが多く、すでに一般的に認知されている表現なので、必ずしも新奇なものとはいえないでしょう。

今後期待したいのは、表現や、素材がクロスオーヴァーする、ミクストメディア的なものになるでしょう。さらには、AI等のテクノロジーが加わったさらなる表現領域を引き受ける部門となるはずです。あらたなアートの領域を切り開く可能性を秘めたものとして、期待をもって審査に臨みました。これからという印象でしたが、アートはここから間違いなく拡張するはずです。

野村 佐紀子
SAKIKO Nomura
写真家

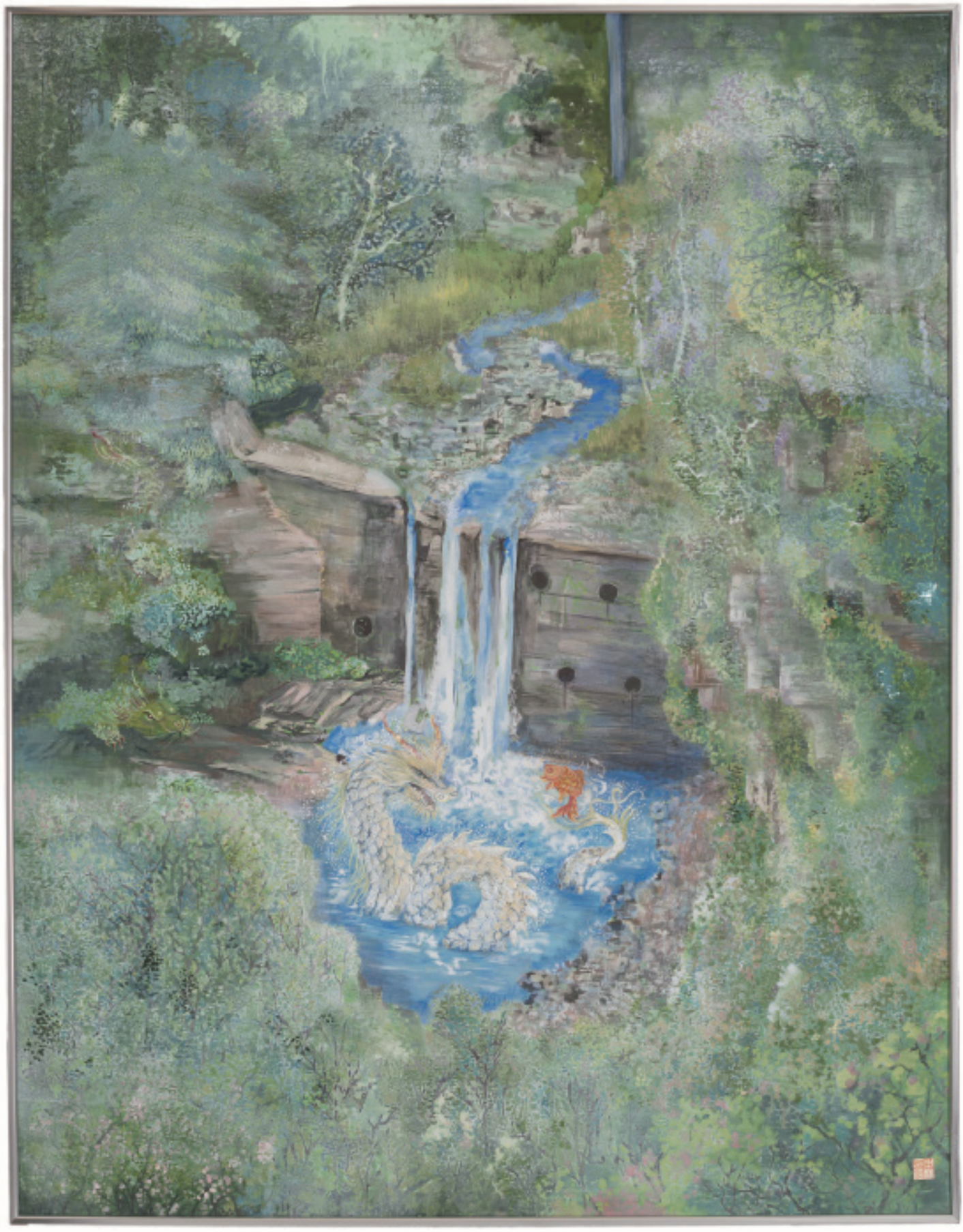
ぎふ美術展賞作品は寺田優芽さんの《風景》です。この作品は、何か気になり目が離せなくなり、そしてじわじわと寺田さんの世界が広がっていきました。透明感がありしなやかで、鑑賞者によってどんな風景にもなるという、とても大きな作品です。最初に聞こえたこの作品の小さな声が大きな風景に導いてくれました。

優秀賞、和みの竹華炭 栗田さんの作品《秋の炭渓谷》は、自然植物を乾燥して炭にした作品です。炭ということで、見る側が集中力を持って細部から見ていくことになり、結果作品に引き込まれ見えてくる物語がクリアになっていきます。橋の上に並ぶ炭になった菱の実が、歓喜に溢れる人達に見えます。優秀賞、佐藤正己さんの《宇宙願望》は、大胆に繊細に描き上げており、佐藤さんの「地球を離れ宇宙へ向かう」気持ちが伝わりました。

沢山の応募作品には根気よく丁寧に作られた作品も多く、特に最後まで集中力と熱意を持って仕上げた作品には感動しました。これからも「自由表現」部門がますます新しい世界を見せてくれる場所になりますように。

ぎふ美術展賞　《海底（うなぞこ）》上田 雅利（養老町）
岩絵具、アクリル絵具

優秀賞　《夏の日》稲葉 沙恵（岐阜市）
岩絵具、銀箔、水干絵具



優秀賞　《白の夢の滝》申　林（愛知県）
岩絵具、銀箔、墨

奨励賞

《花器のバラ》長田 麻友子（岐阜市）

岩絵具

奨励賞

《風木霊》湯之下 正純（岐阜市）

水墨画、発泡スチロール

奨励賞　《おいで》田中 まさこ（岐阜市）
岩絵具、水干絵具

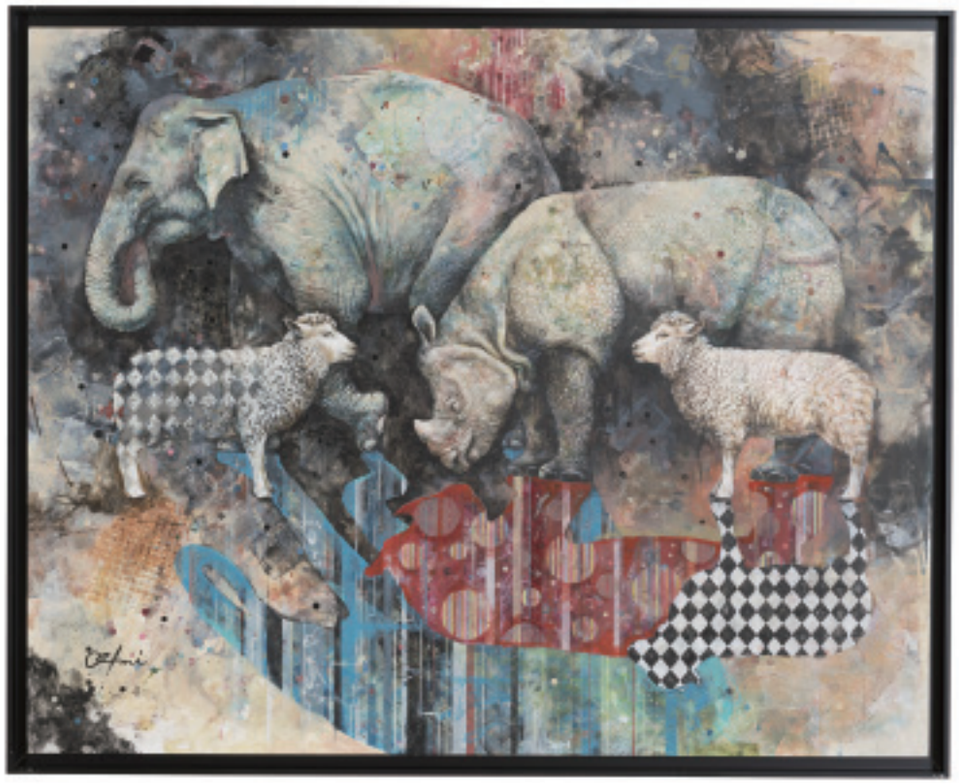
奨励賞　《装いの湿地》山田 玲子（各務原市）
岩絵具、銀箔

奨励賞　《生まれるひ》廣瀬 芽依（愛知県）
岩絵具、水干絵具、クレヨン

ぎふ美術展賞　《atelier》林　直樹（岐阜市）
アクリル絵具

優秀賞　《笛吹く妖精たち》河村 正子（愛知県）
シルクスクリーン

優秀賞　《モメンタンⅡ》鈴木 孝治（愛知県）
油絵具、アクリル絵具



奨励賞　《秘 密》押味 忠志（岐阜市）
アクリル絵具、ジェッソ

奨励賞　《至福の時》永家 秀子（岐阜市）
油絵具、グリザイユ

奨励賞　《静寂に立つ。》石神　純（多治見市）
オイルパステル

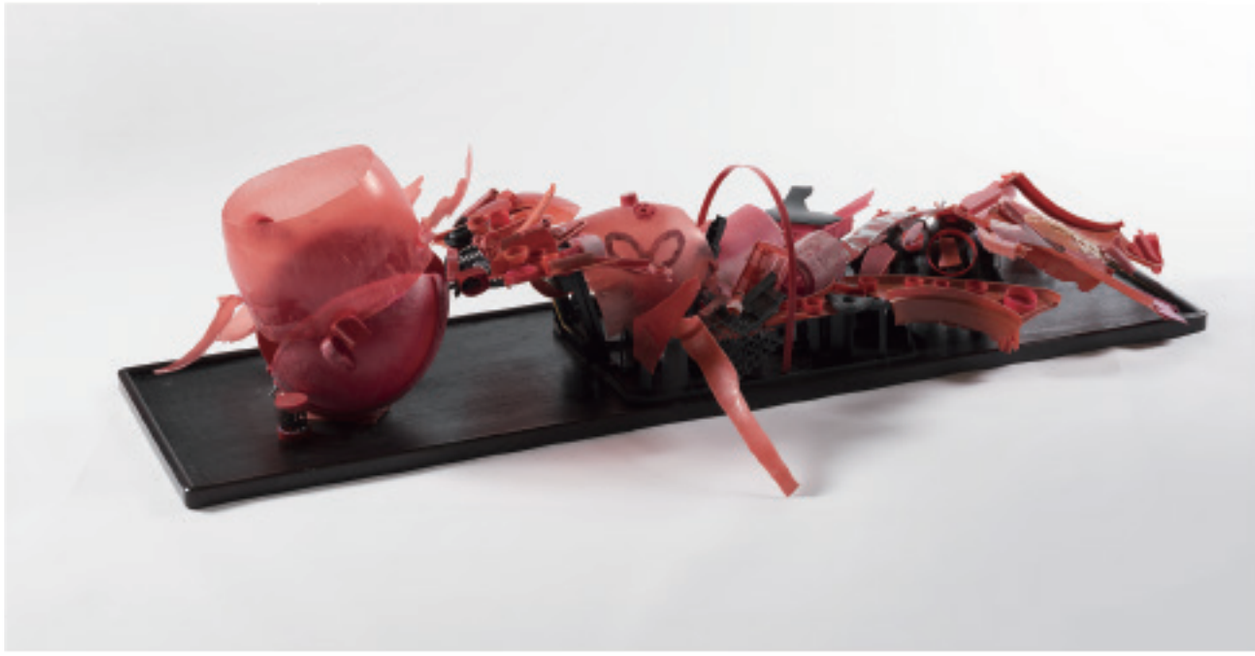
奨励賞　《まだ描き終わらない》山本 みつき（多治見市）
油絵具

ぎふ美術展賞　《寓と玄牝（かげんぴん）》尾藤 敏彦（郡上市）
錫アンチモン、蝋型鋳造

優秀賞　《舞いあがれ》坪田 立江（岐阜市）
石（アラバスタ）、金属（ステンレス）、和紙糸、木（合）

優秀賞　《海のかたち》坂爪 亜蓮（神奈川県）
鉄、溶接、鍛造

奨励賞　《construction３・３・３》野々山 勝彦（愛知県）
楠、檜、アクリル彩色



奨励賞　《地球ダメージ85》陸のかいぶつと海のかいじゅう（愛知県）
海洋プラスチック、彫刻コラージュ

奨励賞

《身近になった月》安藤　治（岐阜市）

銅（ブロンズ）、ステンレス、真鍮

ぎふ美術展賞　《積み木》馬渕 規子（岐阜市）
布

優秀賞　《山帰来紋大皿》酒井 紫羊（岐阜市）
磁器、鉄絵釉裏紅

優秀賞　《無 題》鬼頭 里美（愛知県）
磁器、土

奨励賞　《宇宙大爆発》加藤 敏一（大垣市）
七宝

奨励賞　《wanna be spinner》貝塚 惇観（可児市）
陶、羊毛フェルト、木、布

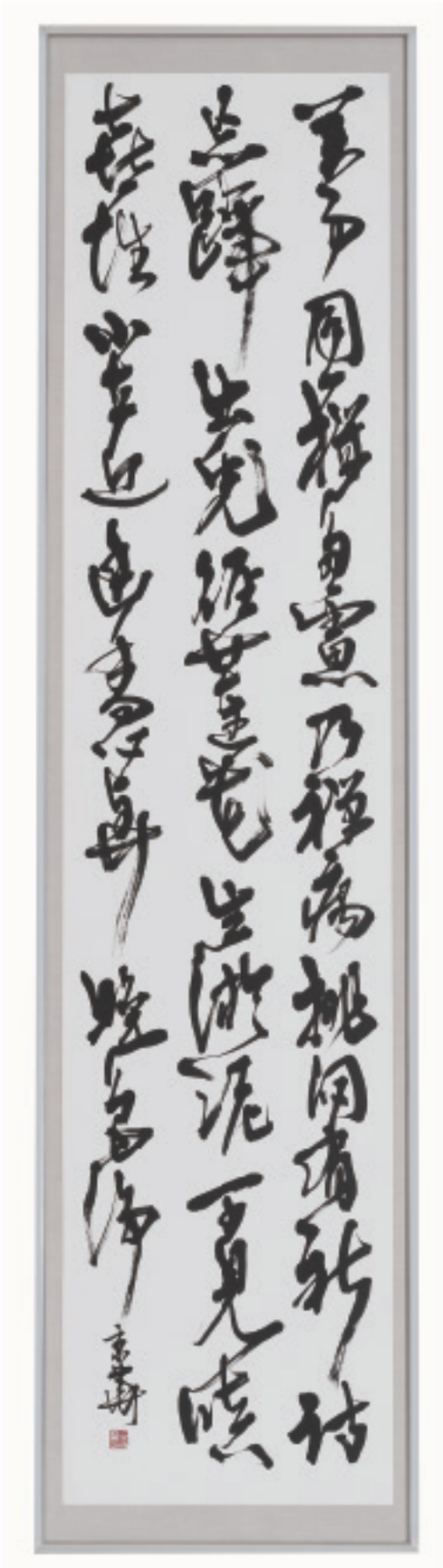
奨励賞

《手描きレペル更紗絵「友人からのバラ」》馬場 澄子（可児市）

布

ぎふ美術展賞　《秋の夜》佐藤 典子（愛知県）

優秀賞　《萬寿二十四方》浅野 修竹（岐阜市）

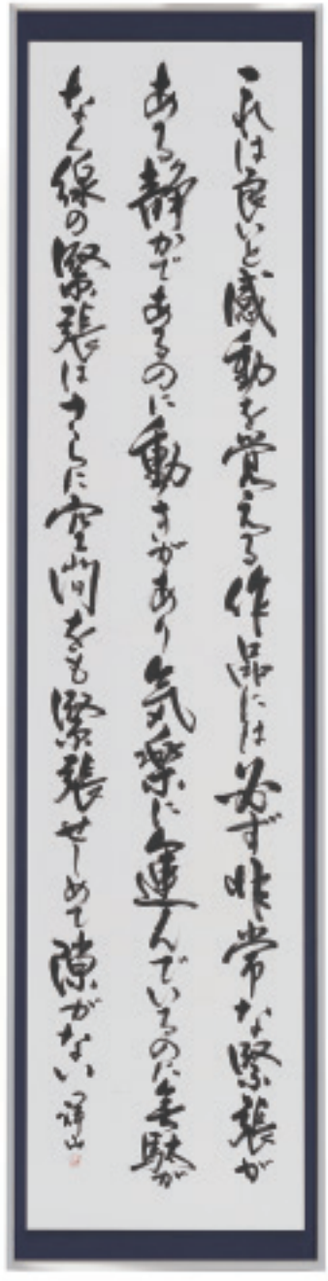


優秀賞

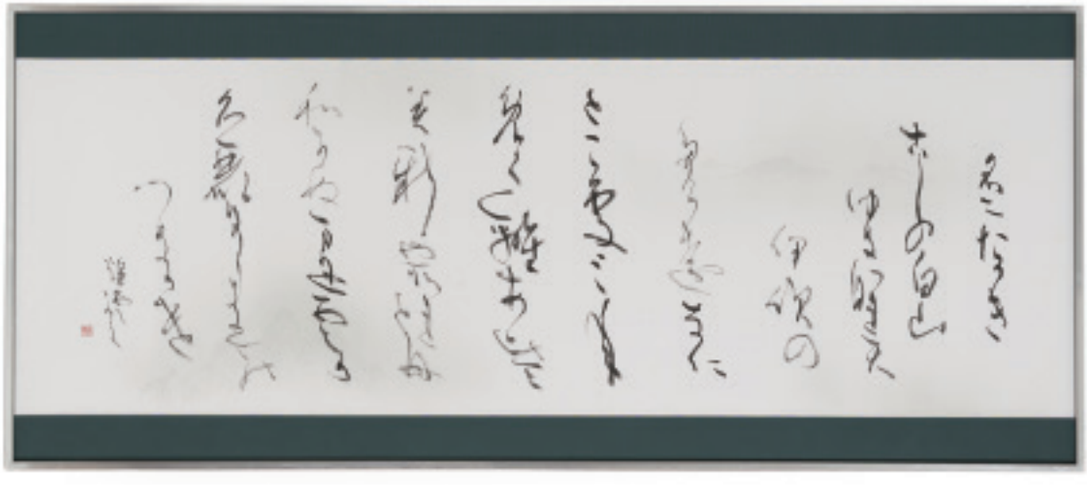
《黄庭堅詩》平田 京華（大垣市）

奨励賞　《絆》浅野 誉子（大垣市）

奨励賞　《寒山詩》勝野　翠（池田町）

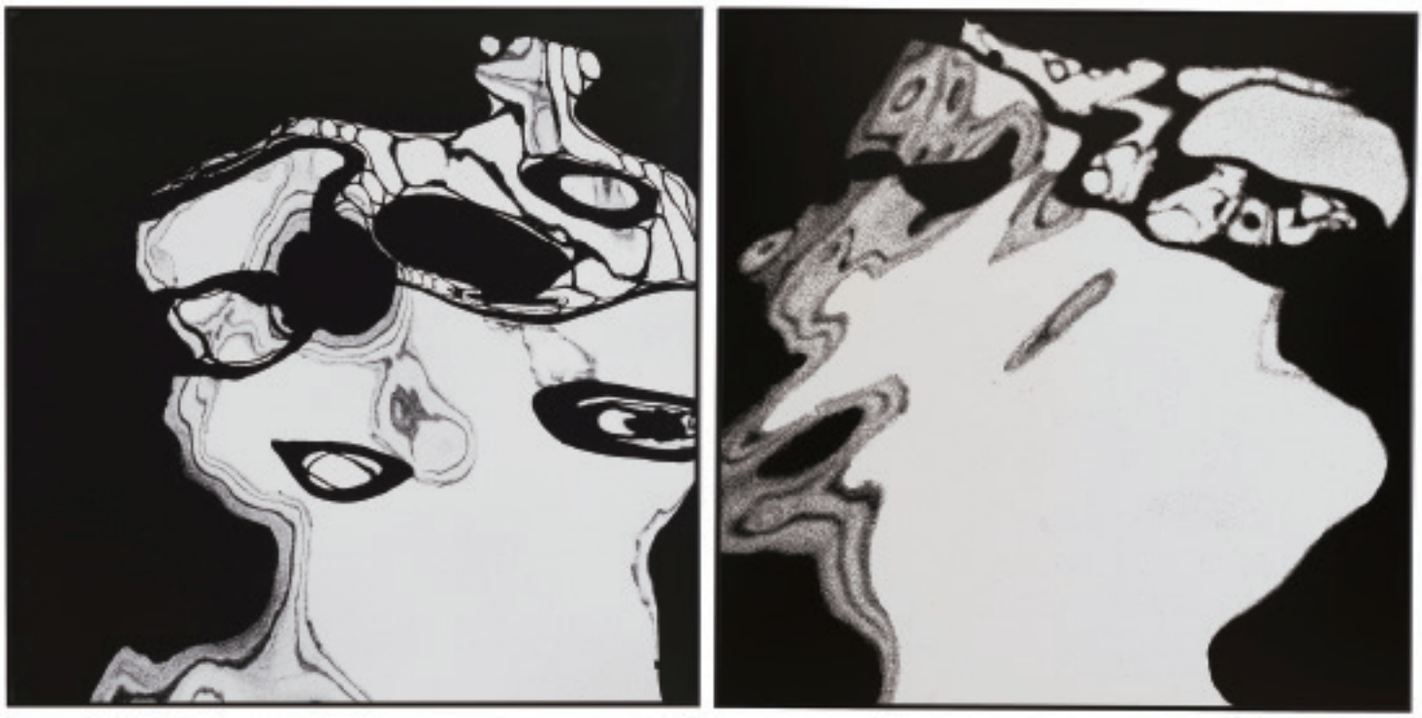


奨励賞
《線の行者》吉田 祥山（岐阜市）



奨励賞　《名に高き》本田 煌雲（本巣市）

ぎふ美術展賞　《見守る》村田　彰（愛知県）
大判カメラ（8×10）、美濃和紙



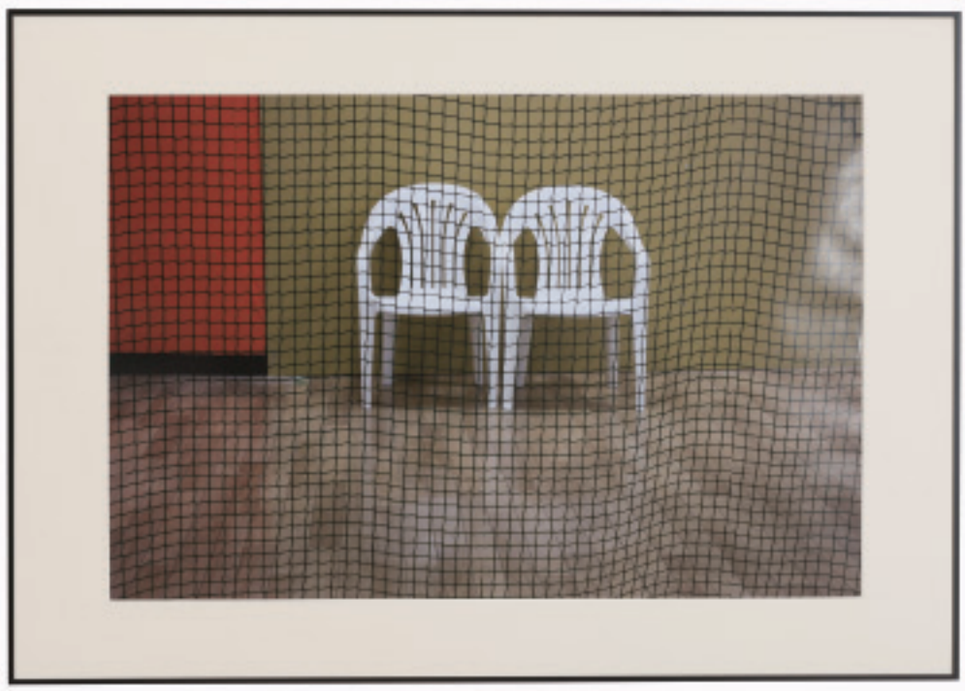
優秀賞　《水路の顔》嶌谷 秀夫（岐阜市）

優秀賞　《表裏一体》太田 育伸（富加町）

奨励賞　《帰り道》杉山 省治（岐阜市）

奨励賞　《過ぎ去りし人》道家 千秋（岐阜市）

奨励賞　《 窓 》岩茸 伸一（高山市）



奨励賞　《空き椅子》谷口 安秋（飛騨市）

ぎふ美術展賞　《風 景》寺田 優芽（三重県）
白土、釉薬

優秀賞　《宇宙願望》佐藤 正己（岐阜市）
油絵具

優秀賞　《秋の炭渓谷》和みの竹華炭　栗田（垂井町）
自然植物、木工用ボンド

奨励賞　《わた絵「野良猫の気品」》 安藤 ゆり（岐阜市）
綿花

奨励賞　《158176》野瀬 昌鷹（愛知県）
アクリル絵具、牛乳パック

出品目録

日本画

ぎふ美術展賞	海底（うなぞこ）	上田 雅利	養老町
優秀賞	夏の日	稲葉 沙恵	岐阜市
優秀賞	白の夢の滝	申 林	愛知県
奨励賞	花器のバラ	長田 麻友子	岐阜市
奨励賞	おいで	田中 まさこ	岐阜市
奨励賞	風木霊	湯之下 正純	岐阜市
奨励賞	装いの湿地	山田 玲子	各務原市
奨励賞	生まれるひ	廣瀬 芽依	愛知県
入選	幼子の見る夢は・・	伊藤 睦美	岐阜市
入選	響け子等の声	川地 勲子	岐阜市
入選	筏流し	藤井 義一	岐阜市
入選	美濃赤坂線荒尾駅5時４５分	水上 春嶽	大垣市
入選	乗鞍	蟹江 義典	高山市
入選	クロ	原田 直政	多治見市
入選	ヴェニスの海	伊藤 薫	関市
入選	宵まつり	所 久美子	関市
入選	月下美人咲く	西垣 松江	羽島市
入選	はじまりの朝	河田 正樹	各務原市
入選	まんだら	真野 由紀子	各務原市
入選	桜　高遠にて	川井 庸弘	可児市
入選	生きていく化石	棚次 寛	可児市
入選	春の思い	長谷部 やよい	可児市
入選	すべて、人間の手の内に	細川 博光	山県市
入選	晩秋落日	水野 壽子	瑞穂市
入選	mid　summer	田端 貞満	飛騨市
入選	小屋の面影	山川 竹之	本巣市
入選	斜光	尾藤 日出子	郡上市
入選	黄昏	浅井 新太	下呂市
入選	数河獅子ファイナル	中村 健吉	下呂市
入選	歴（岩に守られてきた古木）	北村 史子	垂井町
入選	生きる	小竹 典子	垂井町
入選	燃える汗、日本の祭	河合 翠山	関ケ原町
入選	合掌に明かり	佐々木 將規	大野町
入選	今年の蛍	前田 さやか	東京都
入選	やさしい眠り	片山 愛唯	愛知県
入選	時計じかけの微笑み	坂井 良美	愛知県
入選	春に遊ぶ	佐々木 とくみ	愛知県
入選	亀が泳ぐ	田中 雛乃	愛知県
入選	悠々堂々	坂野 寿	愛知県
入選	紫陽花	山田 里未	愛知県

洋画

ぎふ美術展賞	atelier	林 直樹	岐阜市
優秀賞	笛吹く妖精たち	河村 正子	愛知県
優秀賞	モメンタンⅡ	鈴木 孝治	愛知県
奨励賞	秘密	押味 忠志	岐阜市
奨励賞	至福の時	永家 秀子	岐阜市
奨励賞	静寂に立つ。	石神 純	多治見市
奨励賞	まだ描き終わらない	山本 みつき	多治見市
入選	赤い街の記憶	安藤 孝信	岐阜市
入選	木々のざわめき	小森 啓子	岐阜市
入選	洋画教室	杉浦 明美	岐阜市
入選	昭和 99 年	杉浦 佑治	岐阜市
入選	情熱	関谷 文子	岐阜市
入選	岳人の憧れ	高見 敏幸	岐阜市
入選	ふうか	武山 隆	岐阜市
入選	ちかちか	永田 尭三	岐阜市
入選	楽しいとき	林 叶子	岐阜市
入選	アリアス	洞 高明	岐阜市
入選	ずっと一緒だよ！	前田 茂	岐阜市
入選	憧れの帆船	村田 美智子	岐阜市
入選	大山南壁	Yoshihisa	岐阜市
入選	Rhythm of the Rain	脇田 忠博	岐阜市
入選	近江八幡八丁堀・初夏	犬飼 干己	大垣市
入選	墨俣宿より長良川を望む 2024	大熊 強	大垣市
入選	人生百年	久世 久子	大垣市
入選	夕やけ空	小林 日菜乃	大垣市
入選	猫がいる書斎	篠田 美保	大垣市
入選	昨日の足跡	早﨑 葵	大垣市
入選	鼻ちょうちん　ー泣く親子	平墳 雅弘	大垣市
入選	瑠璃色	馬渕 友李	大垣市
入選	神奈備の社のもみぢ	村井 美公	大垣市
入選	フルーツどうですか	柳 みや子	大垣市
入選	光に潜む闇	岩萩 裕司	高山市
入選	梁組（岐阜県高山市大新町）	岡 宣武	多治見市
入選	静物・秋	川島 京子	多治見市
入選	乱れ	小木曽 柑菜	多治見市
入選	郷愁	島崎 彩花	多治見市
入選	CHARM	長久保 美妃	多治見市
入選	ぼくの芝が１番あおい！	中村 晴香	多治見市
入選	田舎	西尾 珠	多治見市
入選	多治見市修道院	原田 直政	多治見市
入選	ピアンコ・エ・ネーロ	藤井 結愛	多治見市
入選	カーテンぎわの静物	石原 幹夫	関市
入選	スポットライト	梅田 珠里	関市
入選	合唱	ユリ	関市
入選	若鮎流遡	安部 成信	中津川市
入選	明日来る夢	天野 るみ子	中津川市
入選	花祭り	大脇 明	瑞浪市
入選	昭和の忘れもの	須藤 信利	瑞浪市
入選	神は御子によって世界を造られた	土屋 英一	瑞浪市
入選	関ケ原合戦　島津の退き口	田中 茂	羽島市
入選	舞	HARU	恵那市
入選	LoVe yOU	片山 萌々香	土岐市
入選	極光	辻野 ひより	土岐市
入選	大樹	青島 幸恵	各務原市

入選	異空間	葛西 加津博	各務原市
入選	memory	戸部 善晴	各務原市
入選	やすらぎ	桃井 末廣	各務原市
入選	窓辺	森 泉	各務原市
入選	小さな散歩	石原 莉緒奈	可児市
入選	潜在意識　THE SUBCONSCIOUS	TAMURA PATRICIA	可児市
入選	space	加納 明莉	山県市
入選	早春の伊吹	岩田 好博	瑞穂市
入選	冬木立	小島 由美子	瑞穂市
入選	飛水峡眺望図	馬矢 波澄	瑞穂市
入選	池畔に佇む	田端 貞満	飛騨市
入選	寒冬に壮健	野々山 富子	本巣市
入選	漂 ── 海になる	横山 孝子	本巣市
入選	to next	大前 肇	郡上市
入選	晴	多田 ひかり	郡上市
入選	江戸厨子王	山内 敏子	郡上市
入選	楽しい雅楽	田中 泰彦	海津市
入選	過疎の風	南谷 正	海津市
入選	窯垣の台所	森 延男	笠松町
入選	清楚になったコンビナート	中島 邦彦	養老町
入選	早春の香り	三島 敏秀	垂井町
入選	思い出の神戸祭り	石原 宏一	神戸町
入選	写メ日記	小澤 伸司	輪之内町
入選	霧雨の山	白川 勇一	揖斐川町
入選	仔ヤギ	若尾 栄子	御嵩町
入選	文明は進歩、だから戦争？　人々の青い空はいつ戻る？	浮橋 美頭	富山県
入選	樹魂（ケヤキ）	鷲山 大志	静岡県
入選	課題	石黒 和広	愛知県
入選	創造 2021	岡田 圭一郎	愛知県
入選	夜は明く	沖段 英典	愛知県
入選	夢幻	島田 加寿子	愛知県
入選	船溜り	杉田 泰昌	愛知県
入選	軌跡	田中 敏子	愛知県
入選	刻	ツルタ マサシ	愛知県
入選	雪の朝	野田 秀樹	愛知県
入選	エビの整列	村上 元彦	愛知県
入選	～宝～（たからもの）	滝北 恵子	大阪府
入選	ざわつく磯	幡原 勉	鳥取県

彫刻

ぎふ美術展賞	東と玄牝（かげんぴん）	尾藤 敏彦	郡上市
優秀賞	舞いあがれ	坪田 立江	岐阜市
優秀賞	海のかたち	坂爪 亜蓮	神奈川県
奨励賞	身近になった月	安藤 治	岐阜市
奨励賞	construction3・3・3	野々山 勝彦	愛知県
奨励賞	地球ダメージ 85	陸のかいぶつと海のかいじゅう	愛知県
入選	帰ろう	八谷 麻里子	岐阜市
入選	"生命（いのち）の神髄"	樋口 勝彦	岐阜市
入選	木花咲耶姫	篠田 和幸	大垣市
入選	道の空ー毬	清水 朋文	大垣市
入選	亜空間の鳥	福井 清治	大垣市
入選	もう いいかい…	永 真司	多治見市
入選	しなやかに 湧きいづる	北村 直美	関市
入選	縄文の記憶	木戸口 幸人	関市
入選	破壊から建設へ	古田 長利	関市
入選	seed Ⅱ	堀場 葵己	羽島市
入選	悲しみ	伊佐治 孝文	土岐市
入選	三つの迷宮 2024	菅原 光則	山県市
入選	なめプリン	出口 佳音	山県市
入選	内側の存在	志水 ゆめか	瑞穂市
入選	ドレミの丘の合奏団	渡邉 正康	飛騨市
入選	佳人	松原 賢典	岐南町

工芸

ぎふ美術展賞	積み木	馬渕 規子	岐阜市
優秀賞	山帰来紋大皿	酒井 紫羊	岐阜市
優秀賞	無題	鬼頭 里美	愛知県
奨励賞	宇宙大爆発	加藤 敏一	大垣市
奨励賞	wanna be spinner	貝塚 惇観	可児市
奨励賞	手描きレペル更紗絵「友人からのバラ」	馬場 澄子	可児市
入選	希望	浅野 雅子	岐阜市
入選	翔	足立 実千子	岐阜市
入選	DRAGON	アンジェラ	岐阜市
入選	私の器	井田 智子	岐阜市
入選	なかよく	奥村 美津子	岐阜市
入選	spiral 水指	纐纈 勇	岐阜市
入選	ととのうろ	shiro	岐阜市
入選	ガーデンショップ（デコパージュ）	長縄 峰子	岐阜市
入選	清流のうつわ	永谷 悦子	岐阜市
入選	未来へ輝けトルネード（白磁金彩花瓶）	森瀬 和廣	岐阜市
入選	国分寺大銀杏（切絵）	森本 義夫	高山市
入選	平和の道標	小木曽 教彦	多治見市
入選	ジョブズの軌跡	足立 義一	関市
入選	大江川（型絵染）	山根 よ志枝	関市
入選	流木瓦　新怪魚	大竹 崇文	瑞浪市
入選	初雪	水野 東三	瑞浪市
入選	おひさま	森 麻里子	羽島市
入選	共生	若尾 信二	恵那市
入選	彩文俑Ⅱ	二十歩 文雄	土岐市
入選	聲	加藤 緑	可児市
入選	押し花絵	古田 桂子	可児市
入選	雫	森下 胡桃	可児市
入選	青涼々	河合 由美子	飛騨市
入選	揺蕩う	千賀 彩永	養老町
入選	混沌とする思考	千賀 希	養老町
入選	飛騨国分寺大銀杏	細川 信行	養老町

入選	四季	竹内 晴香	坂祝町
入選	war（友情）部分間接の抱人形（着せ替人形）	各務 郁子	八百津町
入選	面影－花束－	岩井 美佳	石川県
入選	香りと陽Ⅱ	安達 潤治	愛知県
入選	野の花	佐藤 眞夫	愛知県
入選	素粒子の夢	浜口 るみ子	愛知県

書

ぎふ美術展賞	秋の夜	佐藤 典子	愛知県
優秀賞	萬寿二十四方	浅野 修竹	岐阜市
優秀賞	黄庭堅詩	平田 京華	大垣市
奨励賞	線の行者	吉田 祥山	岐阜市
奨励賞	絆	浅野 誉子	大垣市
奨励賞	名に高き	本田 煌雲	本巣市
奨励賞	寒山詩	勝野 翠	池田町
入選	花橘	石村 晃子	岐阜市
入選	いかにして	岩田 香翠	岐阜市
入選	流	上松 祥也	岐阜市
入選	幽艶	詠鼓	岐阜市
入選	実朝の歌	清水 青蘭	岐阜市
入選	七絶五首	星田 妙子	岐阜市
入選	人ともの	松波 和子	岐阜市
入選	雁塔聖教序　全臨	村中 理香	岐阜市
入選	鶴飼橋に立ちて	安田 朴童	岐阜市
入選	秋の月	山本 貴泉	岐阜市
入選	秋	吉澤 有岐子	岐阜市
入選	いろは歌	吉村 美瑤	岐阜市
入選	江馬細香詩	奥田 長春	大垣市
入選	泡沫	小倉 夏希	高山市
入選	いたづらに	三枝 睦月	高山市
入選	報酬楊侍郎	徳田 蒼春	高山市
入選	聴則聾	中野 秋石	高山市
入選	鼓舞	山田 千乃	高山市
入選	夢に挑戦	白木 瑛祐	関市
入選	飛龍乗雲	白木 耀祐	関市
入選	万葉集　巻第十	安田 胡園	関市
入選	勧酒	田口 秋水	中津川市
入選	洪昇詩	泉 彩音	各務原市
入選	劉嗣綰詩	北澤 素心	各務原市
入選	鹿の歌	杉山 裕梨	各務原市
入選	秦道然詩	高橋 芳翠	各務原市
入選	与謝野晶子の歌	長屋 天虹	各務原市
入選	劉嗣綰詩	林 華香	各務原市
入選	五律　二首	山下 如水	各務原市
入選	みよしのの	加藤 玉華	郡上市
入選	杜甫詩　大乱の兆し	清水 水僊	郡上市
入選	天の川	庄村 清泉	郡上市
入選	和氣	岩田 佳侃	岐南町
入選	李徳詩	長屋 純子	笠松町
入選	われみても	森 美泉	笠松町
入選	王維詩	高井 敦史	垂井町
入選	与謝野晶子の歌　五首	溝口 彩風	垂井町
入選	蜀素帖	河合 翠山	関ケ原町
入選	三輪山を　古今和歌集より　春歌下　四首	髙橋 翠葉	神戸町
入選	五律　二首	青木 桃子	愛知県
入選	梅が香を	岩内 すみれ	愛知県
入選	春は来にけり	上野 明美	愛知県
入選	故郷	加藤 裕子	愛知県
入選	春日野	川本 俊子	愛知県
入選	古爲鑑	桐山 要	愛知県
入選	夕暮れ	来名 孝枝	愛知県
入選	瀬を早み	田村 裕香	愛知県
入選	あさみどり	奈良 穂泉	愛知県
入選	山吹に蝶	西脇 聖園	愛知県
入選	富士	村上 史子	愛知県
入選	夢	若杉 美香	愛知県
入選	色かへぬ	度會 麻子	愛知県
入選	夏の夜は	瀬古 光代	三重県
入選	山桜	田中 かおる	三重県

写真

ぎふ美術展賞	見守る	村田 彰	愛知県
優秀賞	水路の顔	嶌谷 秀夫	岐阜市
優秀賞	表裏一体	太田 育伸	富加町
奨励賞	帰り道	杉山 省治	岐阜市
奨励賞	過ぎ去りし人	道家 千秋	岐阜市
奨励賞	窓	岩茸 伸一	高山市
奨励賞	空き椅子	谷口 安秋	飛騨市
入選	キミがすきなイロ　ボクがすきなトキ	井戸 義智	岐阜市
入選	クリスタルの奇跡	伊藤 美代子	岐阜市
入選	光の聲風の聲	宇佐美 達夫	岐阜市
入選	2022 静かな夏（ピンホール写真）	江川 宏	岐阜市
入選	16 歳の祈り	カタイロ メグ	岐阜市
入選	ときの輪郭	田中 清文	岐阜市
入選	猛炎に挑む	棚瀬 静雄	岐阜市
入選	つばめと家主の愛	所 聖典	岐阜市
入選	跨線橋の女	早川 忠利	岐阜市
入選	けぶる里～野焼き～	本間 かよ	岐阜市
入選	“にぎやか” なお祭り	岐阜協立大学 写真部 西	大垣市
入選	光が差し込む	岐阜協立大学 写真部 渡邊	大垣市
入選	水とともに	蒔苗 友紀	大垣市
入選	飛騨産	池戸 比呂志	高山市
入選	伝統行事	牛丸 昭夫	高山市
入選	大地の息吹	小島 孝	高山市
入選	樹々の叫び	鈴木 良一	高山市
入選	雪の朝	直井 隆義	高山市

出品目録

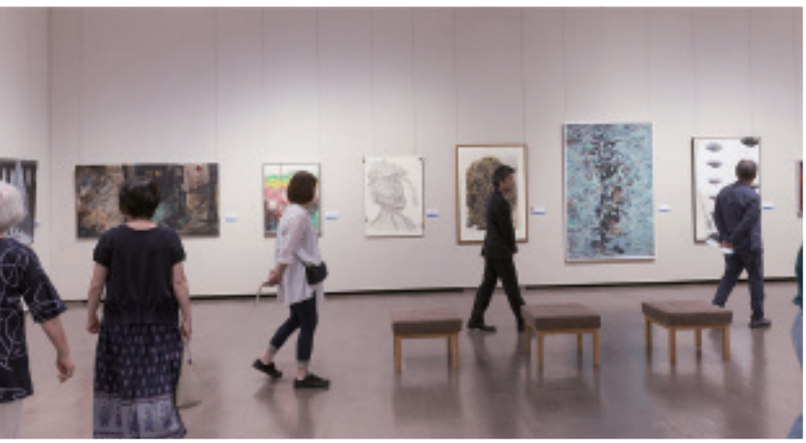
入選	氷解	橋本 弘子	高山市
入選	夜花火	大村 悠姫乃	多治見市
入選	松のポートレート	小川 健太	関市
入選	集団登校	桜井 邦彦	関市
入選	旅の記憶・最果ての地	廣田 昭男	関市
入選	夏夜の篝火に照らされて	藤田 弘	美濃市
入選	真夜中の舞踏会	杉山 浩	各務原市
入選	ゴリラ 21	渡邉 道雄	各務原市
入選	gravity	青木 里帆乃	可児市
入選	爆発	中島 実桜	可児市
入選	ナイルワニ	原 美由紀	可児市
入選	鯉泳ぐ町	土田 和明	山県市
入選	墨いろの雪	大江 直	瑞穂市
入選	残滓	坂下 辰弥	飛騨市
入選	プロローグ	佐藤 奈緒	飛騨市
入選	季の移ろい	福田 俊市	本巣市
入選	ミ・ズ・カ・ガ・ミ	坂野 昭八	郡上市
入選	穴観音	福谷 昌己	下呂市
入選	そびえたつ岩	梶川 大輔	岐南町
入選	滑空	五島 英明	岐南町
入選	シロクマトルネード	吉田 由香	岐南町
入選	窓飾	岩田 久男	垂井町
入選	飛翔	中川 隼	関ケ原町
入選	プロローグ：光	対馬 めぐみ	揖斐川町
入選	明鏡	北川 邦彦	大野町
入選	湛水と月	河村 泰宏	池田町
入選	villain	奥村 依音凛	御嵩町
入選	GIFU	坂々 なな	東京都
入選	家	寧 貝雷	東京都
入選	INVISIBLE REPRO GEMS	伊藤 英高	神奈川県
入選	ゆめのかけはし	尾内 治良	富山県
入選	無心	内田 昌臣	愛知県
入選	じわり	大石 美法	愛知県
入選	イヌツゲ	小笠原 浩二	愛知県
入選	instinctive apparatus−本能的な器官−	鈴川 敦子	愛知県
入選	音連れ	中井 麻美	愛知県
入選	こんにちは	小林 寛久	三重県
入選	夜の海原	新藤 由貴	三重県
入選	舞台装置	蛭川 仁	三重県
入選	ハレノヒ	三村 孝子	広島県

自由表現

ぎふ美術展賞	風景	寺田 優芽	三重県
優秀賞	宇宙願望	佐藤 正己	岐阜市
優秀賞	秋の炭渓谷	和みの竹華炭 栗田	垂井町
奨励賞	わた絵「野良猫の気品」	安藤 ゆり	岐阜市
奨励賞	158176	野瀬 昌鷹	愛知県
入選	Flower Spawn	春日井 希佐子	岐阜市

入選	スカルプチャーランプ	ケストラー・ベルンド	岐阜市
入選	TO HIM (rivers end) japanese subtitles edit 4:42	コモリ シゲキ	岐阜市
入選	夢かなう	高瀬 將也	岐阜市
入選	ソの木／オウノトリ	竹内 裕紀	岐阜市
入選	曼珠沙華	棚橋 靖子	岐阜市
入選	LITTLE ZEE（小さなおじさん）の家	NOMU	岐阜市
入選	阿のねこ・吽のねこ	松波 康子	岐阜市
入選	ぐるぐるアート	山田 凌平	岐阜市
入選	あなたのハート	aiko uragami	大垣市
入選	記憶の欠片	影郎	大垣市
入選	ちーとパパ	草間 智咲	大垣市
入選	イモムシ	帆足 勇一郎	大垣市
入選	悲しみのメロディー	足立 義一	関市
入選	T-REX	金丸 慎	関市
入選	アニメーションはともだち	ユリ	関市
入選	ぼくの脳内	奥村 颯太	羽島市
入選	Summer Parfait	平間 有奈	美濃加茂市
入選	53.5	いとうちとみ	土岐市
入選	わたしがわたしであるために	うしまるふき	各務原市
入選	The time has come（時が来た）	加藤 礼子	可児市
入選	糸の花が咲くころ	ダパト ライサ	可児市
入選	めたこみゅにけーしょん	加納 明莉	山県市
入選	迷宮 2024（レリーフ）	菅原 光則	山県市
入選	弾く	志水 ゆめか	瑞穂市
入選	Fez el Bali　迷路に刺す光	髙尾 佳江	瑞穂市
入選	植物たちの発表会	那須 あかり	瑞穂市
入選	絵空事	坪内 哲治	本巣市
入選	トキ	清水 俊亮	郡上市
入選	「私の鬼ヶ島」	堀 愼哉	岐南町
入選	tito tito-tito	高橋 いそ子	池田町
入選	はらっぱ	阿部 桃	愛知県
入選	梧（アオギリ）検索	遠藤 愼太郎	愛知県
入選	想	島田 加寿子	愛知県
入選	晨　四季画	外山 晨詩	愛知県
入選	黎明	ミカヅキフタツ	愛知県
入選	わたしはわたしを生きていい	山川 はるか	愛知県
入選	三角形の wonder	中塚 翔稀	京都府
入選	海洋環境	日置 芳也	広島県

ぎふ
術展



夢に挑戦

「清流の国ぎふ芸術祭」の概要

戦後間もない昭和 21 年から平成 27 年に至るまで 69 回の歴史を刻んだ「岐阜県美術展」は、時代の変遷や表現の多様化に対応した見直しによって、新たに「清流の国ぎふ芸術祭」として３つの事業を柱に展開しています。

１つめの柱は、2017 年、創造力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的に第１回が開催された、革新的な企画公募展「Art Award IN THE CUBE」。

２つめは、より広く県民に作品発表の機会を提供する公募展「ぎふ美術展」。

そして３つめの柱となるのが、年間を通じ、県内各地で様々なスタイルのプログラムを展開し、アートに親しむ場（ラボ）を提供するアート体験プログラム「アートラボぎふ」です。

清流の国ぎふ芸術祭

Art Award IN THE CUBE (2017,2020,2023)	ぎふ美術展 (2018,2019,2021,2022,2024)	アート体験プログラム ーアートラボぎふー (2018～毎年実施)
全国規模の公募展 ・新たな才能の発掘と育成 ・アートに関わる人材の育成とネットワークづくり ・県民に新たな形のアートの鑑賞機会を提供 ・３年に１回開催	**県民に広く開かれた美術公募展** ・美術に親しむ県民の裾野を拡大 ・県民の創造力、鑑賞力の向上に寄与 ・創作活動に励む全ての県民に発表の機会を提供 ・３年に２回開催	**幅広い県民が参加できる美術講座、ワークショップ等を全圏域で展開** ・美術に対する関心を高めるきっかけづくり ・美術に関する視野を広げ、知識、技術を向上させる機会を提供 ・毎年実施

清流の国ぎふ芸術祭 アート体験プログラム
アートラボぎふ

「アートラボぎふ」を通じて、“アート”は決して堅苦しく敷居の高いものではなく、人それぞれが感じたことを楽しくのびのび表現することで、人それぞれの価値観、多様性を、お互いが理解しあうことにつながるような、そんなきっかけになればと願っています。

この「アートラボぎふ」の一環として、「第５回ぎふ美術展」期間中にも、県美術館の会場内でプログラムを開催しました。

クロストーク｜内田あぐり × 野地耕一郎

テーマ／「日本画を巡る断想～受け継がれる日本画、変わりゆく日本画～」

日　時：8月18日（日）13:30 ～ 14:40
場　所：県美術館　講堂
参加者：72人

野地氏の進行で、内田あぐり氏の日本画のルーツをたどった。

内田氏は、武蔵野美術大学で、麻田鷹司氏、毛利武彦氏から日本画を学んだ。

あるとき、麻田氏は、内田氏の描いた絵に対し、天地を逆さにした方がいいと言った。内田氏は、その時は意味が分からなかったが、のちに、作品は１つの方向から見るだけではなく、ひっくり返して見るという見方もあるのだということに気づき、今は、作品をときどきひっくり返して反対側からも描いているという。

また、麻田氏は、自らもいろいろな技術的・技巧的な実験を行っていたが、「あぐりさん、高い絵の具ばかりがいいんじゃないんだよ。銀灰末っていう安くてもいい絵の具もあるよ」と教えてくれたという。内田氏は、今でも銀灰末を作品に使っている。

野地氏が、毛利武彦氏に、絵を描くこととはどういうことなのかと尋ねたことがあった。毛利氏は、恐れおののく気持ち、震撼させるものが絵から出てこなければ、それは絵を描いていることにはならない、と答えたという。

あるとき、毛利氏は、学生アトリエに落ちていた紙を破って、内田氏の描いている絵に重ねて見せ、「あなたが描いたフォルムとこの破った紙のフォルムとどっちがいいと思う」と聞き、「この破った紙のフォルムの方がきれい。フォルムというものは、自分ではこれで良いと思って描いていても、違うものなんだよ」と教えたという。

《女》（1970年）は、内田氏が大学２年生の時に描いた自画像。大学紛争で大学に行けない中、人間に興味を持ち始め、自己流で箔や岩絵の具を使って自由に描いた。

《横たわる人》（1977年）は、福生の米軍ハウスにたむろしていた女性をモデルに描いた作品。人間の身体の精神的な陰影みたいなものを胡粉と墨で表現しようとした。

《ロマノフの海》（1984年）は、男性をモデルに描いた作品。人体の根底にある生と死が、象徴的な海の中にあるということを描いた。

《残丘ーあくがれ》（2019年）は、家の傍らを流れている小さな川の流れを描いた作品。川の流れの中に人体のフォルムがあることで命の流れみたいなものを表現しようとした。

《分水界》（2020年）は、同じく川の水の流れを描いた作品。台風で被害にあった都幾川のイメージに触発された。自分の中から湧き出てくるものと描きたいものがピタッと合った。

野地氏が内田氏から絵を習っていたとき、動いてパフォーマンスをするモデルのドローイングを行った。内田氏は「動いた人体ではなく、動いた空間を描きなさい」と伝えたという。

日本画を愛するすべての人に勇気とエネルギーを与える対談となった。会場は盛大な拍手に包まれた。

クロストーク｜内田篤呉 × 鈴木徹 × 正村美里
テーマ／「工芸を楽しむ」

日　時：8月24日（土）13:00～14:30
場　所：岐阜県美術館　講堂
参加者：49人

工芸の本質に迫る対談が繰り広げられた。

内田篤呉氏は、工芸には非常に多様性があるが、美術工芸（伝統工芸、工芸美術、工芸オブジェ）と生活・趣味の工芸（伝統的工芸品、クラフト、民藝）に大別できると整理した。

美術工芸とは、いわゆる美術品として価値の高いものを目指す分野であり、文化財保護法で重要無形文化財（人間国宝）として保護されている。伝統工芸展、日展などは、芸術としての工芸を目指す自由表現の場であり、芸術として自立する作品が選ばれる。

生活・趣味の工芸とは、１つは経済産業省が所管する産業工芸・産地工芸。例えば、美濃焼、瀬戸焼、美濃の和紙など。もう１つはクラフト。例えば北欧のデザインを取り入れたプロダクトデザインや手芸作品など。もう１つは民藝。民藝とは、お椀など民衆が日常生活で必要とする道具の中に美を見いだそうというもので、美術工芸を目指すものではないが、美術工芸に近いものも含まれている。

内田氏は、工芸に対する考え方は、「素材」「技術」「意匠性・デザイン性」の３つだと述べた。素材に寄り添い、素材を理解して作るところに技術が必要になり、そこに意匠性が加わって美術工芸となる。鈴木徹氏も、工芸とは、素材と技術力とデザインの３点が高いレベルで融合したものだと考えていると整理した。

工芸作品の審査の難しさにも議論が及んだ。内田氏は、ぎふ美術展においてはレベルをあまり高く設定すると、すべて選外ということにもなりかねないので、どこまでを許容範囲とするかは、出品された作品の総体の中で検討していくことになると述べた。厳しく見て入選作品が２、３点しか残らなかったのでは、そもそも美術展を開催する意味というものもなくなってしまう。そこが審査員としての悩みどころでもあり、線引きはこのぐらいで、と決めながら入選落選を決めていくのだと言った。そして、伝統工芸展や日展でも同様の考え方で決めていると述べた。

内田氏は、ぎふ美術展にはなかなかいい作品が多く、岐阜県というのは非常に豊かな国なのだなと感じたと、審査を総括した。

会場から、内田氏に対し、MOA美術館のことを聞かせてほしいとの質問が上がった。内田氏は、館長として、普通の美術館と同じことをするのではなく、美術品だけでなくいろんな日本文化を楽しめる美術館にしようと取り組んでいることを紹介した。そして、もう１つの取組として、日本の文化の本質であり、柱である工芸を、館として応援していると述べた。美術と工芸の区別は明治時代に西欧から来た概念で、もともと日本にはそうした区別はなかった。それゆえに、工芸には日本の本質が表れるのである。

工芸に対する理解を深める素晴らしい機会となった。会場は大きな拍手に包まれた。

クロストーク｜高橋秀治 × 馬越陽子
テーマ／「生命（いのち）の軌跡」

日　時：8月25日（日）13:00～14:00
場　所：県美術館　講堂
参加者：59人

高橋氏が聞き手となり、馬越氏の画業を振り返る場となった。

馬越氏が最初に美術と出会ったきっかけは、美術が好きな弁護士の父だった。絵の道に進むことを父に猛反対された馬越氏は、東京女子大学英文科に進学。だが、在学中に、古本屋でウィリアム・ブレイクの作品と出会ったことが、一生の道筋を決めた。

ブレイクの絵は、馬越氏の絵の世界に通じるものがあった。ブレイクの信仰、人間性の解放について、卒業論文を書き上げた。その時に辿ったブレイクの哲学は、今も変わることなく馬越氏の根幹になっている。

大学3年の頃、やっと父の許しを得て、東京藝術大学に入るための研究所に通い始めた。当時、東京藝大の入学試験の倍率は40倍。何年も浪人し、指の指紋が無くなるほどデッサンを描いた。そうした努力の結果、入学した藝大では、洋画家の林武先生の教室に入った。

1973年には、文化庁芸術家在外研修制度の絵画分野の女性第１号生として選ばれ、１年間渡欧。200箇所以上、国の数にして22カ国を行脚したことは、かけがえのない宝物になった。研修期間の最後にアウシュビッツを訪れた。そこで見た小さな絵は、明らかに人間の尊厳以外の何物でもなかった。馬越氏は、自分はもう一度人間を信じることができる、と思ったという。

1993年には、パリで個展を開催。つてがあった訳ではなく、武者修行のように図録と作品を少し持ってパリの画廊を片っ端から巡り歩き認められたという、勇気ある行動の結果である。

その後、《人間の河は解放を求めて流れる》（1993年）で、安田火災東郷青児美術館大賞を受賞。作品名は、ブレイクについて書いた卒業論文のテーマと同じだった。この頃から、“人間の河”をテーマに作品を描き続けている。

藝大の同級生で、22年間看病して37年前に亡くなったパートナーへの追悼の思いを込めて描き上げた《人間の大河―いのち舞う不死の愛―》（2013年）で、日本芸術院賞を受賞。

馬越氏の作品にはいつもメッセージがあり、そのメッセージが描き上がるまでは、何度でもつぶして描くという。生命を原点にしたものを描かなければ芸術は腐敗するという馬越氏の信念は、ブレイクから学んだものである。

「馬越氏の絵は、人間というものをずっと追求している。そのことを非常に強く感じる」と高橋氏がまとめた。

最後に、馬越氏から、2025年秋、長野県小布施町に「馬越陽子おぶせ記念美術館」が新たに開館する予定であることが告げられた。会場から大きな拍手が沸き起こった。

作品講評会｜日本画

講師：内田あぐり、野地耕一郎

日　時：8月18日（日）　15:00～16:00
場　所：岐阜県美術館　展示室3
参加者：106人

総評

むきだしの絵を描きたいという欲望を感じる作品がたくさんあり、60点を超える応募作品から入選作品40点を選び出すのにとても苦労した。作品は額縁によっても全然変わるので、額縁についても、ぜひよく考えて工夫してみてほしい。

ぎふ美術展賞《海底（うなぞこ）》

糸を縦に張り付けて固定し、下地を作った作品。表現したいものと表現手法がぴったり合っている。側面にも絵を描いているのであれば、思い切って額を付けずに出品してもよかっただろう。

優秀賞《夏の日》

日差しが強い中での影の描き方に、情感を込めようとしていることがわかる。うまく影の表情が表現できている。上部の樹木の表現も、もう少し何かのニュアンスが加わるとより良い作品になるだろう。

優秀賞《白の夢の滝》

実際の風景と、自身のイメージの中のアニメーションを重ねて描いているという新しい表現の作品である。幻想だけではなく、生活実感みたいなものも入っているところが面白い。もう少し大きい作品で見てみたい。

奨励賞《花器のバラ》

胡粉の地に色で白描するという日本画の古典的な技法を使いながら、自分なりに現代の表現にアレンジをして、描きたいように描いているところを評価した。

奨励賞《おいで》

色に濁りがなく透明感があり、塗り方も素朴で良い。教え子である子どもたちがみんな違う顔の表情をしていて、よく観察していることがわかる。愛情を感じる作品。

奨励賞《風木霊》

発泡スチロールに墨で描いた作品。発泡スチロールのムラ感と、墨のムラが非常によく出ている。真ん中が空いていて奥からサークルのように押し寄せてくるような空間が上手く表現できている。今後もさらに、実験的なことを続けてほしい。

奨励賞《装いの湿地》

４枚パネルにそれぞれ描き分け、箔を段違いに貼った絵の構成と、５色の少ない色でこれだけの世界観を作っていることが面白い。あえて細長いパネル４枚であることで、パネルを入れ替えてみることができる良さがある。

奨励賞《生まれるひ》

描かれた子どもの表情や手が作家自身のものになっているところを評価した。絵の具の使い方が非常に綺麗で透明感があり、額縁の群青色のセンスも良い。

作品講評会｜洋画

講師：高橋秀治、馬越陽子

日　時：8月25日（日）　15:00～16:00
場　所：岐阜県美術館　展示室3
参加者：90人

ぎふ美術展賞《atelier》

内側から光が出てきているような、作者の気持ちがぼんやりと立ち上がってくるような感じがする。自分だけの祈りの空間であるアトリエというテーマに即し、限られた色で奥行きのある空間を醸し出し、丹念に描き込み、写実とは違うリアリティがある作品。

優秀賞《笛吹く妖精たち》

様々な顔のように見えるヘチマのたわしを自由なタッチで描いた版画作品。黒で下に空間を落としているような点も絵の広がりを感じさせる。何だろうと立ち止まらせるような謎を含んだ作品として魅力を持っている。他の油画に負けない力強さがある。

優秀賞《モメンタンⅡ》

赤と黒をバランスよくまとめる力があり、作品が強く見える。中央のぼかした部分が周りのはっきりとした色面をより生かしており、かなり手の込んだ、知的な構成力を評価した。

奨励賞《秘密》

たくさんの要素をまとめる構成力が非常にある。見どころが多い一方で、整理がなされるとより良い作品になるだろう。動物の胴体など、部分的に平面の塗りが出てくると絵がより強くなる。

奨励賞《至福の時》

構図についてよく勉強されていることがわかる。静物を、「食べたいな」ではなく、「美しいな」と思いながら丹念に時間を注ぎ込んで描き進んだ結果、写実の柔らかな仕上げができている。

奨励賞《静寂に立つ。》

クレヨンを中心に使用し、ハシビロコウの独特な、ある種の気味悪さみたいなものが非常にうまく表現されている。そして、空間に抜けを作っており、技巧的に考えていることがわかる良作。

奨励賞《まだ描き終わらない》

学校の美術室での場面が素直にストレートに伝わってくるようなフレッシュさがあることがこの作品の一番の魅力である。手のひらに水が流れているという日常の何でもない所作を絵にしたことに意外性と新鮮さを感じる。

作品講評会｜彫刻

講師：楠元香代子、林武史

日　時：8月18日（日）11:00～12:20
場　所：岐阜県美術館　多目的ホール
参加者：108人

総評

作っている時は良く見えても、展示されるとまた作品のイメージは違ってくる。それを反省して、次の作品制作に移っていく。作家とはそういうものではないだろうか。

自分が今やりたいということを続けることが大切。また、どこかで汗をかいていると感じられる作品は、観る側も自然とそこに目がいくものである。ぜひ今後も続けていただきたい。

ぎふ美術展賞《棗と玄牝》

女性の柔らかい肉体を、あえて金属に置き換えたことでモニュメンタルになり女性の美しさがより際立っている。アクリルケースの中に作品をぶら下げ、中は空気が抜けるようになっているという、展示方法も手が込んでおり、実によく考えられた傑作である。

優秀賞《舞いあがれ》

大理石に木のテーブルとメッシュの網目をバランスよく組み合わせることで石を軽やかに見せている。作品名のとおり、空間から舞い上がって空気が自由に動いているその動きが美しい。

優秀賞《海のかたち》

鉄という素材が変容し、まるで動き出しそうなムーブメントのある作品に仕上がっている。細かい部分の溶接表現が非常に繊細かつ時間がかかっている力作であり労作。

奨励賞《身近になった月》

月というロマンのあるものをユニークな発想で作品にした完成度の高い作品。ブロンズの雰囲気もしっかりと出ており、月の表面のクレーターを感じさせる色彩も見事である。

奨励賞《construction３・３・３》

非常に抑制の効いた色彩と、少しずつ違っている３つの作品の構成的な組み合わせがおしゃれな作品。じっと見ているとメロディーやブラックの絵も連想させるような、興味深い作品。

奨励賞《地球ダメージ 85》

第一印象として作品の強さがある。アートは年齢関係なくみんな平等だということを改めて感じさせる。海から拾ってきたものが悲しいという、子どもの純粋な表現する心を感じさせてくれる作品。

作品講評会｜工芸

講師：内田篤呉

日　時：8月24日（土）15:00～16:00
場　所：岐阜県美術館　展示室4
参加者：52人

ぎふ美術展賞《積み木》

欧米で集めた古い布を使ったパッチワークで積み木を表現した作品。作品の持つ明るさが非常に良い。ストーリー性がある点も含め高く評価した。

優秀賞《山帰来紋大皿》

デザイン性、技術力、焼き上がりの良さ、配色すべてにおいて完成度が高い。銅で色を出した釉裏紅という非常に難しい技法に長年取り組んできた成果がよく表れている。

優秀賞《無題》

型鋳込みの均一性のある中で、コバルトブルーとグリーンの釉薬が溶け合いとても美しい作品。並べたときのスケール感が非常にあるので、下に置くよりは、壁に飾った方がいい。もしホテルのロビーの壁に飾られたらふわっと華やかな非常にいい空間になることだろう。

奨励賞《宇宙大爆発》

いわゆる七宝焼はミリ単位の非常に細かい作業であるが、本作は無線七宝という釉薬を非常に多く見せたものによって、ビッグバンのように宇宙が拡大していくイメージを表現できているということを評価した。

奨励賞《wanna be spinner》

陶と丸い羊毛で羊をイメージした、作家性が強く、自由な造形を目指した作品で、将来性を非常に感じた。ぜひ続けてほしい。きっと自由表現部門に出しても評価されただろう。

奨励賞《手書きレペル更紗絵「友人からのバラ」》

友禅染の重要無形文化財保持者（人間国宝）である森口邦彦氏が一目見て授賞を決めたほど極めて高く評価した作品。技法的な難しさも克服しながら、表現もデザイン性もよくまとまっている。

作品講評会｜写真

講師：鳥原学、野口里佳

日　時：8月17日（土）15:00～16:00
場　所：岐阜県美術館　展示室4
参加者：74人

総 評

写真を撮影する技術よりも“見る技術”が必要な時代になってきている。自分の写真を“見る”ために、人の写真をよく見て、直感力を育ててほしい。

力作がたくさんあり、もっとスペースに余裕をもって見たいところ。色々な実験精神を試してみること、そして、それを受け入れてくれる展覧会があることの重要さを改めて感じた。

ぎふ美術展賞《見守る》

美濃和紙の製作現場をアナログで撮影し、美濃和紙にプリントアウトするという、提案力にも優れた、非常に完成度の高い作品。被写体間のまなざしの関係性がよく表現されている。大きさが異なる４枚の写真をつないで一つの作品にしていることも評価した。

優秀賞《水路の顔》

難しいアブストラクトの表現。コントラストを高め、顔という思わぬ形を汲み取った点がたいへん面白い。抽象から物語が生まれている。非常に完成度の高い構図であること、額のフレームの細さが作品を生かしていることも評価した。

優秀賞《表裏一体》

現実の風景を平面上に抽象化した作品。補色の関係という色の並びの良さに加え、この撮影地点からの視点とレンズの画角であれば良い写真になると確信し、大きなプリントに仕上げた作者の決断を評価した。

奨励賞《帰り道》

カメラを気にせず口を大きく開けた女の子のインパクトが強い。作為を超えて偶然撮影できた一瞬が、その構図も含めて、写真だからこその表現性にたどりついている。

奨励賞《過ぎ去りし人》

作品名が 40 年前に撮影した写真に特別な意味を与えており、写真の原初的な力を感じた。過去に撮影した写真を見直すことで、撮影当時とは異なる解釈が生まれ、作品として成立している。

奨励賞《窓》

ビルにアパートの窓が映りこんでいることの絵としての面白さと、さらにビルの窓が２つ開いていることでひずみが生まれているという構図。シンプルだが写真でしかできない視覚表現で完成度の高い作品。

奨励賞《空き椅子》

色彩や構図の理屈を超えた不思議さがある。デザイン的に見える一方で非常に実在感がある。何回も見ているうちに自然と心に残り、忘れられなくなる作品。

作品講評会｜自由表現

講師：榎本了壱、野村佐紀子

日　時：8月18日（日）　15:00～16:00
場　所：岐阜県美術館　展示室4
参加者：123人

総評

はっきりした歴史のある領域の創作表現からはみ出た、または入りづらい・入りたくない表現者たちのための“自由表現”は、変容していくアートの先端にある領域ではないか。
「何これ、これが芸術なの？」といったところから新しい芸術が出てくる。新しいアートの世界を創ってほしい。

ぎふ美術展賞《風景》

単なる小さなオブジェというよりも、山岳地帯や生まれ育った街のようにも見える一つの世界観がある。削ったりくっつけたりと、色々な要素が錯綜する魅力があり、何度も気になってしまう不思議な作品。５ｍくらい大きなものになったらどんなインパクトを受けるか、見てみたい。

優秀賞《宇宙願望》

自分の中に繊細に散らばっている素材や独自の世界観を非常にうまく空間の中にアレンジメントしている。よく見ると隠し絵的な遊びもあり、二重性、三重性を持った表現が組み込まれており面白い。二つの人体で画面を埋め尽くしているにもかかわらず圧迫感がない空間構成で、実に豊かな趣のある表現になっている。

優秀賞《秋の炭渓谷》

炭にした植物に、非常に小さな細工を施した自由表現ならではの象徴的な作品。単なる盆栽ではなく、人物や橋など中に物語がたくさん詰まっている。さらに３か所にわずかに朱色をつけるなど、観る人が油断することを許さないような仕掛けが素晴らしい。

奨励賞《わた絵「野良猫の気品」》

細かい繊維を継ぎ集めて表現した猫と種類の異なる押し花の絶妙な組み合わせからモチーフに対する思いやりと、描きたい気持ちが伝わってくる傑作。本当の猫のひげを貼ったのかもしれないと、ふと想像させるくらいのリアリティがある面白い作品。

奨励賞《158176》

タイトルは身長が 158 ㎝から 176 ㎝に伸びたことを表す。飲んだ牛乳パックの日付を貼り付けるという、自分が生きている証を残していくという重要なアートの仕事を実践している。丸と点々の小さな単位を繰り返していく手法はアートの新しいスタイルになってきている。ぜひ継続してもっと大きな作品を作ってほしい。

◎ぎふ美術展賞（各部門1点）

重要無形文化財「志野」保持者　鈴木藏氏制作　湯呑み

鈴木藏氏略歴

1934 年　岐阜県土岐市に生まれる
1961 年　第８回日本伝統工芸展　NHK 会長賞受賞
1967 年　第 14 回日本伝統工芸展　日本工芸会会長賞受賞
1982 年　日本陶磁協会賞　金賞受賞
1987 年　芸術選奨文部大臣賞受賞
　　岐阜県芸術文化顕彰受賞
1994 年　重要無形文化財「志野」保持者に認定
1995 年　紫綬褒章受章
2005 年　旭日中綬章受章
2024 年　文化功労者に選出

現在　日本工芸会正会員・参与

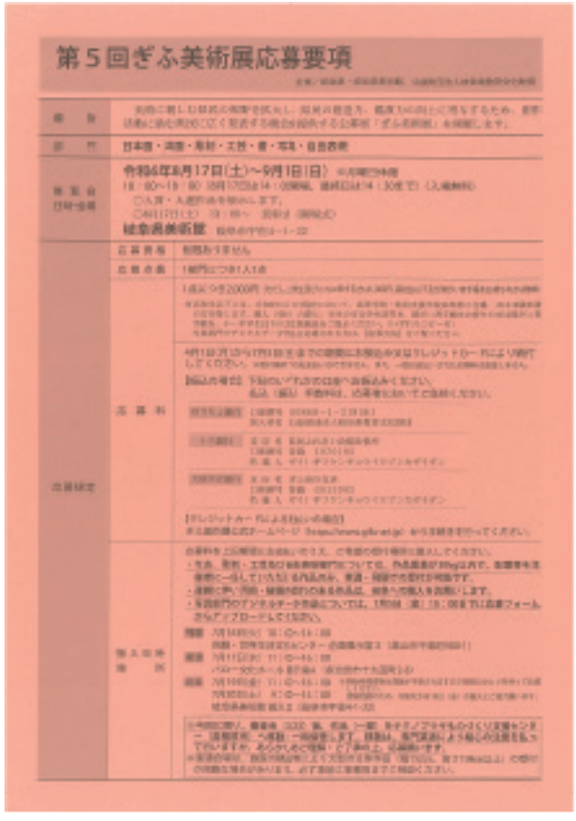
◎優秀賞（各部門２点）

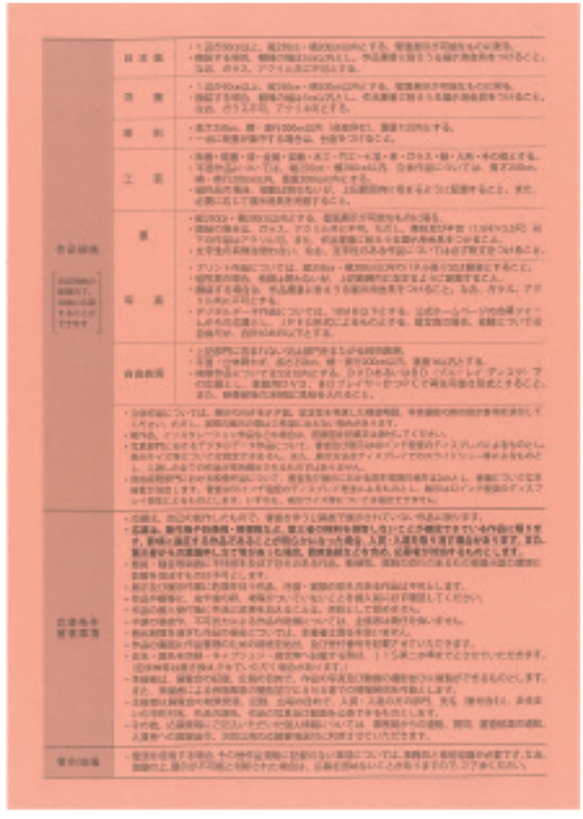
岐阜県重要無形文化財「志野」保持者　林正太郎氏制作　湯呑み

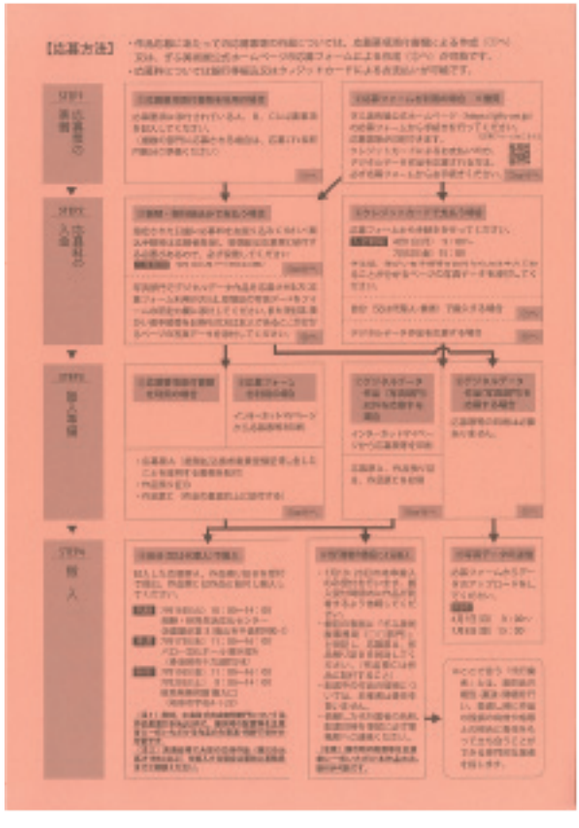
林正太郎氏略歴

1947 年　岐阜県土岐市に生まれる
1971 年　朝日陶芸展岐阜知事賞受賞
1993 年　美濃陶芸大賞受賞
　　加藤幸兵衛賞受賞
1997 年　美濃陶芸庄六賞受賞
　　岐阜県芸術文化特別奨励賞受賞
2012 年　岐阜県重要無形文化財「志野」保持者に認定
2015 年　岐阜県教育功労者表彰受賞
2020 年　岐阜新聞大賞受賞
　　岐阜県功労者表彰受賞
現在　日本工芸会正会員、美濃陶芸協会顧問

応募要項


第５回ぎふ美術展応募要項

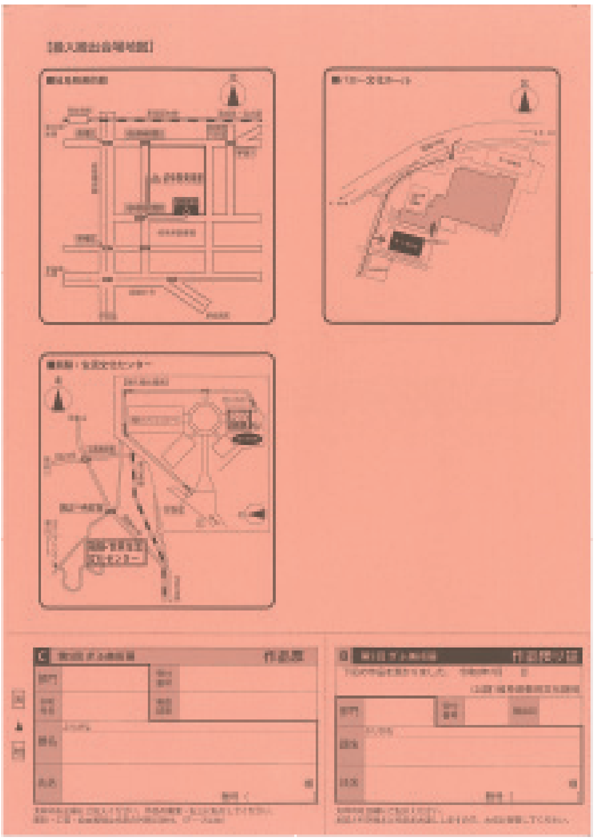


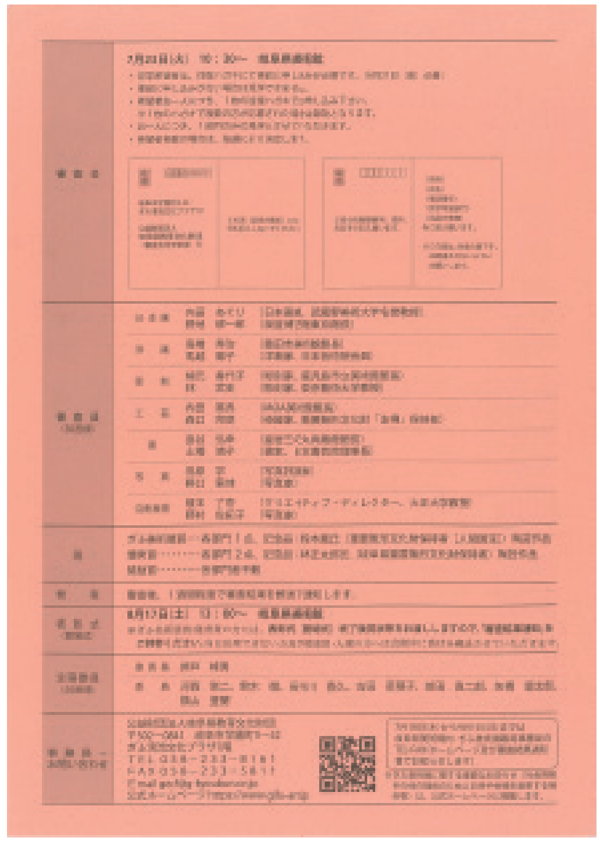

【応募方法】

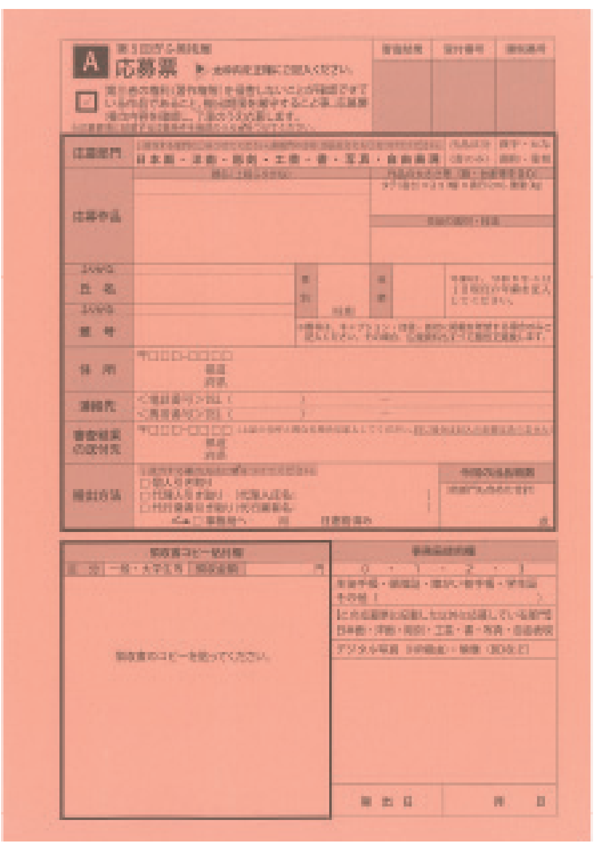
【搬出方法】

【作品画面の貼付例】

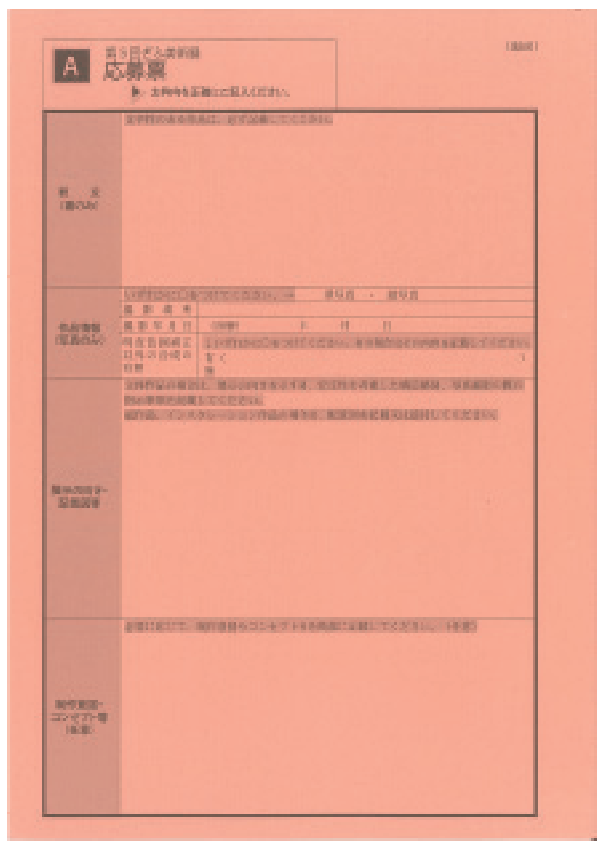
【氏名や団名の記載についての留意事項】







応募票



応募票

応募状況

第５回ぎふ美術展　応募・審査結果

	日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	自由表現	合計
応募点数	62	222	29	94	123	223	127	880
ぎふ美術展賞	1	1	1	1	1	1	1	7
優秀賞	2	2	2	2	2	2	2	14
奨励賞	5	4	3	3	4	4	2	25
入選	32	85	16	32	54	58	39	316
入賞・入選	40	92	22	38	61	65	44	362
入賞・入選率	64.5%	41.4%	75.9%	40.4%	49.6%	29.1%	34.6%	41.1%
県内	49	190	26	75	93	201	95	729
県外	13	32	3	19	30	22	32	151
県外割合	21.0%	14.4%	10.3%	20.2%	24.4%	9.9%	25.2%	17.2%
平均年齢	63.7	53.6	55.4	61.0	53.6	53.9	43.1	53.7

市町村・県別の応募者数

県内

市町村	計	市町村	計
岐阜市	180	岐南町	11
大垣市	72	笠松町	7
高山市	48	養老町	6
多治見市	53	垂井町	16
関市	37	関ケ原町	3
中津川市	4	神戸町	10
美濃市	4	輪之内町	5
瑞浪市	7	安八町	3
羽島市	14	揖斐川町	10
恵那市	6	大野町	5
美濃加茂市	9	池田町	9
土岐市	15	北方町	2
各務原市	39	坂祝町	3
可児市	34	富加町	2
山県市	16	川辺町	2
瑞穂市	19	七宗町	0
飛騨市	17	八百津町	1
本巣市	13	白川町	0
郡上市	14	東白川村	1
下呂市	3	御嵩町	22
海津市	7	白川村	0
		合計	729

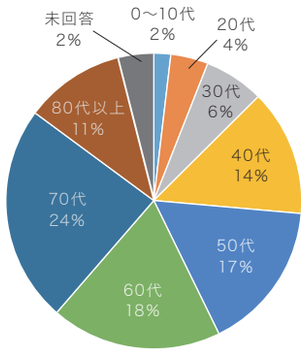
県外

都道府県	計
埼玉県	3
東京都	3
神奈川県	1
富山県	3
石川県	1
静岡県	13
愛知県	105
三重県	6
滋賀県	3
京都府	3
大阪府	1
兵庫県	2
奈良県	2
鳥取県	1
広島県	2
香川県	1
熊本県	1
合計	151

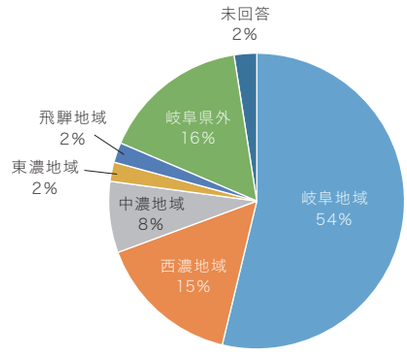
来場者アンケート

対象者　第５回ぎふ美術展来場者（27,237 人）
調査方法　紙面およびウェブ回答による任意のアンケート調査
回答数　194 件

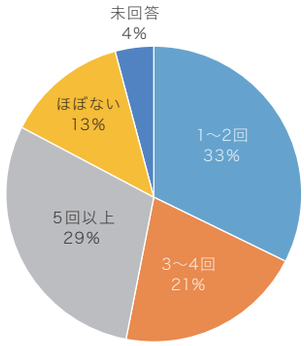
1　年齢



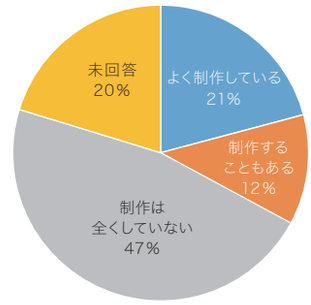
2　お住まいの地域



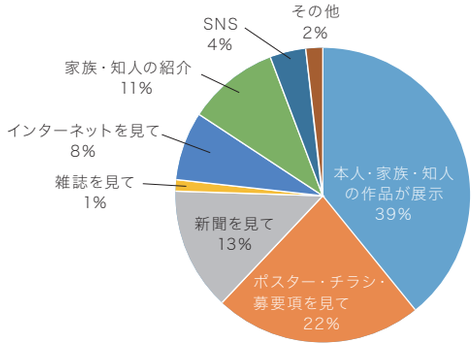
3　各種美術展への年間訪問回数



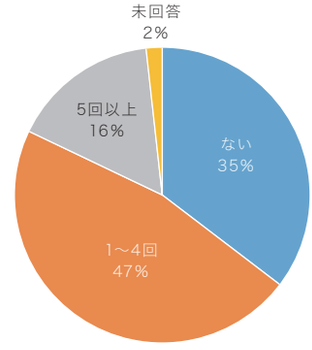
4　美術作品制作



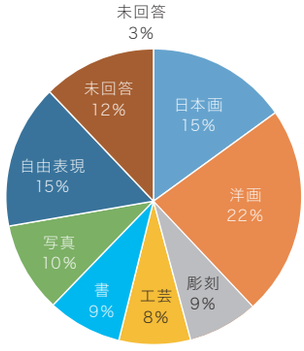
5　ぎふ美術展の開催をどちらで知りましたか。



6　岐阜県美術展（県展）又はぎふ美術展を訪問・鑑賞されたことがありますか。



7　特に印象に残った部門は。（複数回答可）

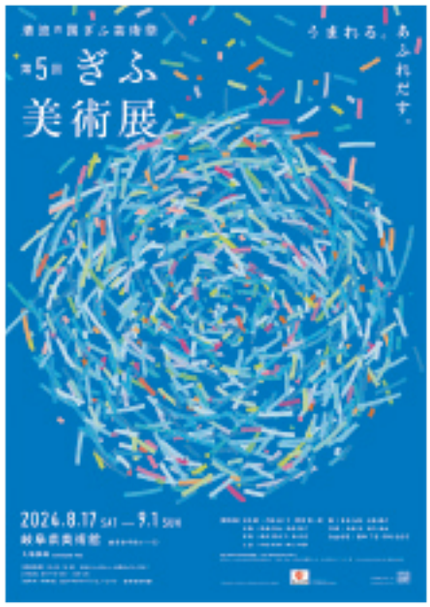


広報

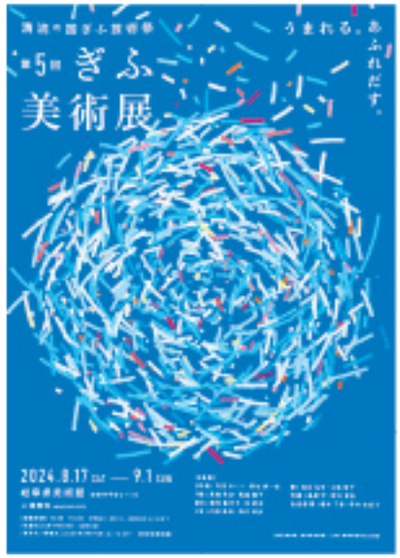
作品募集ポスター

作品募集チラシ（表）

作品募集チラシ（裏）

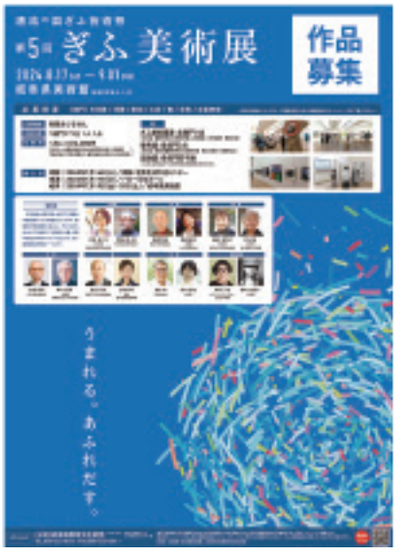


展覧会ポスター



展覧会チラシ（表）

展覧会チラシ（裏）



岐阜新聞（2023.12.23）

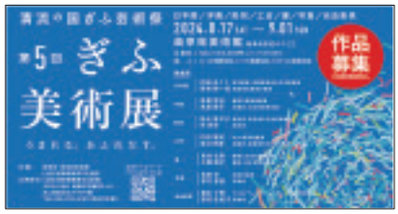
岐阜新聞（2024.08.17）

中日新聞（2023.12.23）

中日新聞（2024.08.17）

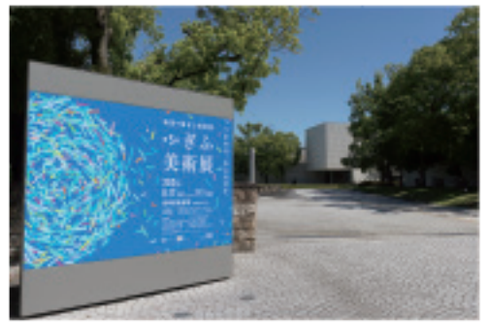
月刊誌「美術の窓」
（2024 年 11 月号 / 株式会社生活の友社刊行）

GiFUTO（2024 年 2 月号／株式会社中広刊行）

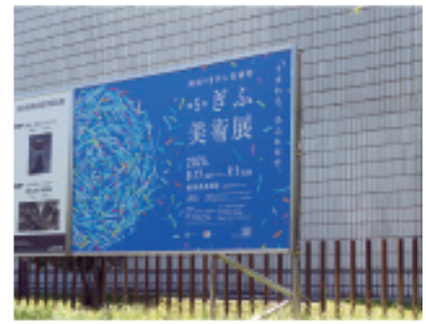


新美術新聞
（2024 年 4 月 1 日号／株式会社美術年鑑社発行）

審査員講評パネル



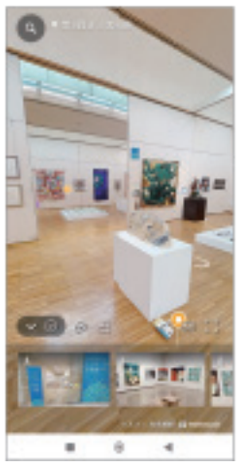
岐阜県美術館正面看板



岐阜県美術館北側看板

展示室４入口看板

岐阜県美術館エントランスホール看板

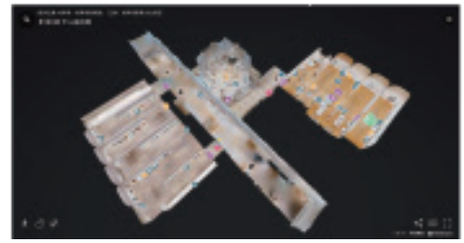


3D バーチャル美術展①

「3D バーチャル美術展」の公開

第５回ぎふ美術展の様子をパソコン、スマートフォンなどの画面で、いつでも、どこでも、誰でも鑑賞していただけるよう、３ＤＶＲで公開しています。右下の二次元コードよりご覧いただけます。

3D バーチャル美術展②



3D バーチャル美術展③

運営体制

清流の国ぎふ芸術祭 運営委員会 委員名簿

（委員 氏名 50 音順　敬称略）

役 職	氏 名	所属機関・団体役職
委員長	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
委 員	臼井 千里	書家、岐阜県世界青年友の会常務理事
	小野寺 茂樹	日本放送協会岐阜放送局局長
	角田 茉瑳子	児童文学作家
	加藤 幸兵衛	陶芸家
	高橋 秀治	豊田市美術館館長
	土屋 明之	岐阜県芸術文化会議会長
	土屋 禮一	日本画家、日本芸術院会員、日展副理事長
	日比野 克彦	岐阜県美術館館長、東京藝術大学学長

（2024 年 9 月末日時点）

清流の国ぎふ芸術祭 ぎふ美術展 企画委員会 委員名簿

（委員 氏名 50 音順　敬称略）

役 職	氏 名	所属機関・団体役職
委員長	神戸　峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
委 員	河西　栄二	岐阜大学教育学部教授
	鈴木　徹	陶芸家
	長谷川　喜久	日本画家、名古屋芸術大学教授
	古田　菜穂子	（公財）岐阜県教育文化財団文化芸術アドバイザー、 兵庫県立大学大学院特任教授
	前田　真二郎	情報科学芸術大学院大学（IAMAS) 教授
	矢橋　頌太郎	洋画家
	横山　豊蘭	書道家、アーティスト、名古屋芸術大学非常勤講師

（2024 年 9 月末日時点）

第5回ぎふ美術展を終えて

第5回ぎふ美術展が無事に開催されました。ご来場いただいた皆様、そして出品参加してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

本展は、岐阜県内外のアーティストたちの多様な作品を一堂に集め、地域の文化と芸術の発展を目指す重要な機会となりました。

入賞・入選作品の選定において各審査員が、作品の独自性や技術力などを総合的に評価し、質の高い作品を選ぶことに注力されている姿勢に、企画に携わる我々にとっても勇気づけられ、印象に残るものでした。

選ばれ展示された作品は自由な発想と、現代社会への鋭い視点を反映しており、我々に新たな感動を与えるものでした。

生活の中で見過ごされがちな日常、そこに潜む「モノ」を再発見する作品も多く見られ、このようなアプローチは、観客に新たな視点を提供し、私たちの周囲にある美を再認識させるものでした。

また、意欲的な工芸作品も多く見られました。岐阜県は長い歴史を持つ伝統工芸の宝庫であり、地域の文化を次世代に継承する重要性も強く感じました。

さらに、インタラクティブな作品も多数あり、観客はただ作品を鑑賞するだけでなく、アートとの対話を楽しむことができました。

会期中には、審査員による作品講評会やクロストークも行い、アートへの理解をより深める機会になったかと思います。

ぎふ美術展は出品者と審査員、そして会場に足を運んだ観客の皆様との、ライブな交流の場と位置づけてきました。本展が盛況のうちに終了できたことを大変うれしく思っています。

最後に、ぎふ美術展が、この地域のアートシーンを活性化させ、岐阜の文化を支える重要なイベントとして成長し続けることを願っています。

次回の「第6回ぎふ美術展」は2025年夏に開催されます。さらなる深化を遂げた作品と出会えることを楽しみにしています。

ぎふ美術展企画委員会委員長　神戸 峰男

清流の国ぎふ芸術祭

第5回 ぎふ美術展

発行年：令和7年1月発行

デザイン　伊藤デザイン事務所　伊藤 裕之

印刷　株式会社協和印刷工業

撮影　Choice 宮川 邦雄

編集・発行　岐阜県

公益財団法人岐阜県教育文化財団
〒502-0841岐阜市学園町3丁目42番地 ぎふ清流文化プラザ1F
Tel:058-233-8161(県民文化課)　Fax:058-233-5811

本書掲載の肩書きは令和6年9月末日時点のものです。

令和6年度
文化庁
文化芸術創造拠点
形成事業

うまれる。あふれだす。